

理転後わずか半年で国公立医学部合格、文系学部卒の社会人が受験した全私大医学部に合格。1対1個別と科学的な学習メソッドで逆転合格も可能です!

医学部・京大・難関大専門の少人数と個別指導の予備校です。京大現役講師をはじめとする圧倒的な講師陣。わずか3ヶ月で偏差値を15アップさせた科学的な学習メソッド。完全1対1個別指導による丁寧な指導で、たくさんの逆転合格者を生み出していました。私大医学部はもちろん、国公立大学医学部への合格者も複数輩出しています。また医学部専門予備校と比較するとリーズナブルな授業料設定になっています。

1/専門家集団によるサポート

・大手予備校で教室長を勤めた講師 ・イリノイ大学首席卒業、博士課程修了の講師 ・実際に京都大学で教鞭をとる講師 ・大学院で言語習得の理論を修めた講師 英語教育の国際資格を持つ講師 ・京都大学で数学を修めた20年超のキャリアを持つ講師 ・米国の大学院でMBAを取得した競争戦略の専門家 ・米国の大学にて7年間を過ごした本格講師 ・京都大学、大阪大学大学院で数学を修めた講師など、圧倒的な講師陣であなたをサポートします！

2/科学的学習メソッド 第二言語習得論(SLA)

人がどのように第二言語（外国語）を習得するか、というメカニズムを研究する学問「第二言語習得研究」。言語習得の効率的なプロセスは明らかになります。烏丸学び舎では、大学院でこの学問を修めた責任者が、あなたの英語の成績を驚くべきスピードで向上させます。3ヶ月で偏差値が15以上伸びた例も決してめずらしくありません。

3/完全1対1個別指導とカリキュラムデザイン

烏丸学び舎の授業は、講師1人に対して、生徒1人の「完全1対1の個別指導」を基本とします。まず、専門の学習プランナーが個々のカリキュラムをデザイン。進歩を見ながら随時最適化を行っていきます。実際の授業は、問題演習や授業内のやりとりによってあなたのつまずきを発見し、対応策を提案していくコンサルティング型の授業です。1対1という形式にはどのような授業がもっと効果的なのかを考え、ゼロベースで授業を再設計しました。



医学部・医学科 合格実績

京都大学
神戸大学
千葉大学
福井大学
鳥取大学
富山大学
滋賀医科大学
大阪市立大学
防衛医科大学
埼玉医科大学
近畿大学
日本大学
関西医科大学
東邦大学
東京医科大学
帝京大学
金沢大学
藤田保健衛生大学
川崎医科大学
愛知医科大学
大阪医科大学
兵庫医科大学
福岡大学 その他多数

医学部・京大・難関大をめざす。

烏丸学び舎

» 無料体験実施中 ☎ 075-361-1180 または 烏丸学び舎 で検索
(定員になり次第締め切ります)

Access

京都府京都市下京区室町通り仏光寺上ル白楽天町521-1
阪急京都本線烏丸駅「26番出口」から徒歩約4分
京都市営地下鉄烏丸線四条駅「6番出口」から徒歩約4分

大阪医科大学 仁泉会ニュース

仁泉会ニュース 第51巻第1号
発行所 〒569-8686 高槻市大学町2-7
電話 072-682-6166 FAX 072-682-6636
発行者 安藤嗣彦 発行部数 6,100部
URL <http://www.jinsenkai.net>

謹賀新年



目次

P3
新年のご挨拶

大阪医科大学 仁泉会理事長 安藤嗣彦／学校法人 大阪医科大学理事長 植木 實／大阪医科大学学長 大槻勝紀
東日本支部長 酒谷 薫／京都仁泉会会长 松本恒司／大阪府支部連合会会长 霜野良一／中央区東支部長 長野文昭
港区支部長 奥村隆司／生野区支部長 村田高穂／阿倍野区支部長 福本敏子／高槻市支部長 保田 浩
堺市支部長 村木宏要／河内長野市支部長 追矢秀人／奈良県支部長 中尾重昭／和歌山県支部長 田伏俊作
川西市支部長 土肥恒夫／西宮市支部長 岩下敬正／岡山県支部長 小出尚志／島根県支部長／林 孝乾
愛媛県支部長 井関亮甫／第19期評議員 稲森耕平／第39期評議員 和辻利和

P25 受賞報告 大阪府医師会 保健文化賞受賞記念 大阪府医師会長賞 酒井雅人（学40期）
大阪医科大学第53期同窓会開催のお知らせ
支部だより

P26 仁泉会石川支部懇親会報告 喜多 徹（学24期）
P28 仁泉会高槻支部会ゴルフコンペ報告 白石将史（学50期）
P29 仁泉会阿倍野支部総会と懇親会の報告 福本敏子（学24期）
P31 令和元年度 仁泉会大阪府連 布施・河内・枚岡および 辰巳昭央（学27期）
八尾・柏原支部連合懇親会の報告

P32 仁泉会河内長野支部交流会の報告 櫻井幹士（学45期）
P33 令和元年度 仁泉会和歌山県支部総会のご報告 湯川裕史（学29期）
クラス会だより

P35 47同窓会開催報告 後藤研三（学21期）
P36 学23期（昭和49年卒）同窓会「生涯初めての同窓会参加の友人」 近藤敬一郎（学23期）
P37 東雲出版版 井内 燕（医学部3回生・文芸部）
P38 学部26期同期会報告 行村 純（学26期）
P39 学43期同窓会 黒川晃夫（学43期）

P41 ラグビー部の思いで 高矢康幸（学26期）
P42 2019（令和元）年度大阪医科大学ヨット部OB総会 石崎英介（学45期）
P44 TOPICS 「子どもを入れたい医学部ランキング【私立編】」

会員著書 青木泰亮先生（学17期）

P45 記事紹介 竹中 洋先生（学23期）
P47 新聞切抜 田中英高先生（学29期）
P48 冊子切抜 井尻慎一郎先生（学31期）

P50 冊子切抜 医師臨床研修マッチング
P51 エッセイ「歴史を彩った女性達（20）」
P52 まんが 西村 保（学4期）

本部だより お口にポン太ミン（学31期）
P53 会員訃報
P54 編集後記

新年の御挨拶

大阪医科大学仁泉会 理事長 安藤嗣彦（学20期）



新年明けましておめでとうございます。本年も何とぞ仁泉会事業に御協力の程お願いいたします。

昨年は頻回の台風の上陸に加え、記録的な豪雨等の自然災害に日本全土が見舞われ、甚大な被害が出ました。大阪医科大学病院でも診療制限等の被害を受けましたが、仁泉会員にも診療所の浸水被害の報告があり、お見舞いいたしました。本年はこの様な災害が無い事を祈るばかりです。

大阪医科大学と大阪薬科大学との完全統合が目前となり、両大学の寄附行為も決定し、新たに大阪医科大学が誕生する事となりました。今後、大阪医科大学が、日本でも有数の医療系複合大学として構築される事を願っています。又、お互いの同窓会同志の交流が、本部のみならず支部間にも拡大される事を願っています。

さて、仁泉会の支部活動の現状を鑑みますと、近畿地方における県単位の支部では、毎年定期総会が開催され、組織の構築も保たれています。しかしながら近畿圏以外の県では定期的な支部総会を開催する支部が減少しているのも事実です。この要因としては、近畿圏以外の支部会員の減少があります。現在の大阪医科大学の受験者並びに入学者の実に90%近くが近畿圏の在住者です。当然の事ながら近畿圏以外の支部会員は減少し、会の存続も危ぶまれています。その責任を支部長先生に問う事はできません。仁泉会本部では、その対策として、近隣の県支部との合同懇談会を提案し、実行に移してまい

りました。何とか全国的な組織の構築が出来てきましたが、更なる充実を計るべく、努力いたします所存です。

又、新たに一昨年より在校の全学生が準会員として我々の仲間に加わる事となりました。卒業後は仁泉会の正会員として、仁泉会活動に協力いただける事を期待いたします。学生会員に対する奨学金貸与制度の充実、西医体、学園祭への賛助、優秀な学生に対する仁泉会理事長賞の授与等、今後も出来るだけの援助を惜しまない所存です。

以上をもって私の新年の挨拶とさせていただきます。



新年のごあいさつ

一本学法人の発展と社会の公器としての質向上ー

**学校法人大阪医科大学
理事長 植木 實（学12期）**

明けましておめでとうございます。

時が過ぎ去るのは早いもので、平成から令和の時代に移り、令和2年の新年を迎えました。仁泉会の皆様におかれましては、新たな気持ちで新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

世界情勢は大きなうねりの中にあり、中でも近隣のアジア諸国から目が離せなくなっています。本邦を見ますと、政治面では野党勢力にリーダー不足が否めず、与党の揚げ足取りに終始しており、経済面では政府は増税を果たしたもの、増税分は度重なる自然災害や超高齢化社会への補完に使われると思われ、大国の貿易摩擦の煽りで財政の好転化は当分望めそうもありません。政府が国を挙げて推し進める Society5.0 社会に目を転じますと、情報面の発達が著しく、生活面での便利さは進歩しているものの、SNS 等による真偽不明な多くの情報に加え、サイバー攻撃もさらに激しくなり、社会の不安定要因にもなっています。しかしながら、この世界の経済不況の中にあって、本邦は巧みな財政の舵取りがなされ、デフレやインフレにも陥らない物価の維持は、評価に値するを考えます。

一方、本学法人の財政については、昨年度の大坂北部地震や西日本豪雨、2度の台風、さらには電気ケーブル切断に伴う大停電といった度重なる災害による影響で落ち込んだ収支差額は、今年度、病院面での V 字回復を掲げて皆で努力した結果、前半期はかなり回復していま



す。しかし、がん・免疫関係の高価薬剤の差益が少なく、材料費の値上がり、人件費の上昇などで利益率の伸びが少なく、ここ数年、大学病院における医療の収支構造には大きな変化を感じています。

扱、大阪医科大学は高槻高等学校及び大阪薬科大学と法人合併して学校法人大阪医科大学が誕生、それぞれ6年と4年が経過して順調な運営が行われています。この間、高槻中学校・高等学校においてはキャンパス全面整備事業が今年度中に完了することから、創立80周年記念に向けて素晴らしい教育環境が整いました。教育力強化と男女共学制と相まって、最優の進学校への躍進が期待されます。また、大阪薬科大学との統合は令和3年4月に決定され、その実現に向け、文部科学省の指導のもと寄附行為の改正や人事・財務業務の統一に係る作業が進められており、既に両大学の卒業生が集う同窓会ではご了解をいただいている。また、大阪医科大学創立100周年の記念事業としての病院新本館建築は、病院5号館と臨床講堂棟の解体【図1】、【図2】が進められており、盛替え工事の後、本年6月頃から新本館A棟の建築が始まり、約2年後には竣工します。新棟には高槻市を中心とする三市一町が運営する大阪府三島救命救急センターが移転し、その後、本法人のもとで運営されますが、それに関する行政との交渉も順調に進んでいます。

一方、大学統合に併せて、私たちは本学法人の社会の公器としての役割と位置付けを考え必要があります。そのために、過去2回、学校法人として、大阪医科大学、大阪薬科大学、高槻中学校・高等学校及び大学病院や三島南病院が、長年にわたる「教育・研究・医療」における「地(知)の中核拠点 (Center of Community)」を自覚しながら、どのような社会貢献、即ちサステナビリティ活動を行ってきたかを冊子(第1版及び第2版)として発行し、サステナビリティ活動として法人の活動ぶりを仁泉会諸氏並びに



【図1】



【図2】

(大阪医科大学 本部キャンパス 解体状況)

多くのステークホルダーの方々にお届けしてきました。この活動冊子は、ISO（国際標準化機構／スイス）に基づく ISO26000 ガイドラインに則り、7つのテーマ（組織統治、人権、労働慣行、環境、公正な事業慣行、消費者に関する課題、コミュニティへの参画・発展）について、本学法人がどのような社会的責任、社会貢献、地域還元を果たしているかをとりまとめたものです。最近になり、国連サミットにおいて「全世界すべての人たちが持続的に人らしく生きるための開発目標」として SDGs（Sustainability Development Goals）が発表されました（2015年）。そこには 17 の目標（Goals）が掲げられ、これらすべての目標に関わるのは国連と国のみと言われており、その中で本学法人が重点的に取り組める目標として「健康と福祉」、「質の高い教育」、「ジェンダー平等」、「働きがい」、「技術革新」、「持続可能社会」及び「パートナーシップ」の 7 項目が挙げられます【図3】。従いまして、令和3年4月に予定される大学統合の機会に、従来の ISO26000 の 7 テーマを中心

学校法人大阪医科大学の社会貢献＝サステナビリティ活動

ISO26000ガイドライン



『サステナビリティ活動冊子－第2版－』



SDGs

Sustainable Development Goals



学校法人大阪医科大学
= 重点取り組み目標

これからの
サステナビリティ活動

【図3】

心に、SDGs の 7 項目を取り入れた内容で活動をご紹介するサステナビリティ活動冊子第 3 版を出版する予定です。本法人は、この編集作業を通して社会における責務を考えつつ、前述の項目を社会の公器としての質向上に向けた努力材料にして、最優の医療系総合大学・学園への一層の発展を目指し、日々研鑽を積み重ねてまいりたいと思います。

仁泉会の皆様におかれましては、現在行っている多くの法人事業及び 2 大学・中等教育校と 2 病院・クリニックそれぞれの活動にご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今年は東京オリンピック開催の年です。世界中が参加する待望のスポーツ一大イベントを我々も大いに楽しみつつ、国民が一体となって支援して成功に導き、国威も内外に示せればと期待致します。

最後に、旧年に賜りましたご高配に深く感謝し、また今年一年の皆様のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げまして、新年のご挨拶と致します。

2020 年新年のご挨拶

大阪医科大学 学長 大槻勝紀（学27期）



新年明けましておめでとうございます。仁泉会の皆様にとりまして健やかな新春を迎えたこととお慶び申し上げます。

昨年は 1 月に大坂なおみ選手の全豪オープンテニス

優勝と華やかな幕開けとなりました。また 5 月 1 日には平成から令和へと元号が改まり、新しい時代の到来を感じました。しかし世界に目を向けてみると政治的には 5 月にはイギリスのメイ首相が EU 離脱問題で辞任し、6 月には香港で起こったデモが現在も広がりを見せています。また経済的にも米中貿易摩擦をはじめ世界的な経済成長の翳りが報じられ、混沌とした一年となりました。しかし 8 月には渋野日向子選手が全英女子ゴルフでメジャー制覇したことはゴルフファンとしてうれしいニュースでした。

昨年 6 月 1 日、学長に再任されました。4 年前の学長就任時に 5 つの教学改革方針【Innovation (教育・研究改革), Translational Research (橋渡し研究), Social Contribution (社会貢献), Globalization (国際化), Open Mind (自己改革と情報の共有化) 】とそれの方針の KPI を公表し、これまで PDCA を展開してきました。4 年間の活動を振り返ってみると、最も改革が進んだのは Innovation でしょうか。教育改革では教育センターに専任教員を 3 名配置し、日本医学教育学会を盛会裏に終えたこと、高い評価を受けて医学教育分野別評価（国際認証）が認定されたことや医学研究科に「医科学」修士課程の設置が文科省により認可されたことがあげられます。特に日本では国際認証が認定された医学部はまだそれほど多くはありません

。国際認証を受けている世界の多くの大学と本学では 5、6 年生の 2 年間で臨床実習（クリニカルクレーンシップ）をすることになり、単位互換が容易になります。本学ではすでに国立台湾大学と単位互換を目的とした交換留学生制度に関する MOU を締結しています（資料 1）。今後は多くの世界の大学と単位互換による交換留学生を増やし、グローバルな視野を持った医療人の育成に努めていきます。また大学ランキングやブランド力強化の目的で Interstitial Researcher(IR) と呼ばれるアンケートや情報の分析し、提言する専門職を採用しました。

資料1

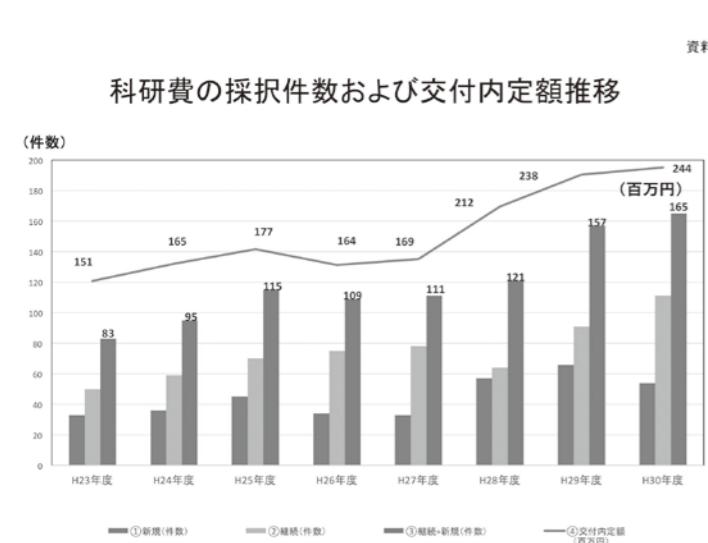
国立台湾大学医学部との単位互換協定締結



Yen-Hsuan Ni教授と大槻学長

【資料 1】

研究改革については研究の大規模な組織改革（研究組織と事務組織を含む）を行ないました。研究組織改革では大学院から研究機構を独立させ、研究支援センターとして研究者の横断的な共同研究をサポートするとともに研究費については学長裁量経費を供出して本学に特徴ある研究拠点の形成に努めました。科研費獲得対策として文科省から 3 年間 University Research Administrator (URA) を採用し、教員への科研費対策の指導をお願いしました。その結果、科研費は 4 年前と比較すると科研費採択件数は約 2 倍、獲得額は約 1.5 倍に増加しました。科研費の採択率は 35 % で、全国平均 25 % を超え、単科大学としてはほぼトップのところまで来ました（資料2）。特に看護学部教員の多くは科研



【資料2】

費に採択されています。さらに研究者からの要望の強かった医療統計の専門家を2名採用し、論文作成の時から統計的なアドバイスをしてもらい、研究者から好評を博しています。また大型の公的研究資金として私立大学等改革総合支援事業、AMED や私立大学等総合支援事業タイプAにも採択されました。特にタイプAに採択された事業は産官学（大阪医科大学、高槻市、高槻市商工会議所など）が一体となって健康寿命の延伸を目的とした「たかつきモデル」の構築を目指しています。市民から得られた唾液サンプルを用いた細菌叢のゲノム解析、口腔機能検査やインターバル歩数のデータと DM、動脈硬化、血圧などの健康寿命に関わる因子との関連性を追求し、いくつかの新知見を得ています。今後は産官学の共同事業として「たかつきモデル」を世間に広げていきたいと考えています（資料3）。事務組織改革では科研費を扱う部署と外部研究資金を扱う部署が分かれているため、研究推進課として一本にまとめ、研究支援センターの直下に配置し、研究者と職員の連携を密にし、研究者の利便性を図っています。

しかしながら昨年5月に判明した再生医療等安全性確保法に違反する事件が報道され、仁泉会の皆様に大変ご心配をおかけし申し訳なく思っています。予期せぬこととはいえ、大学の



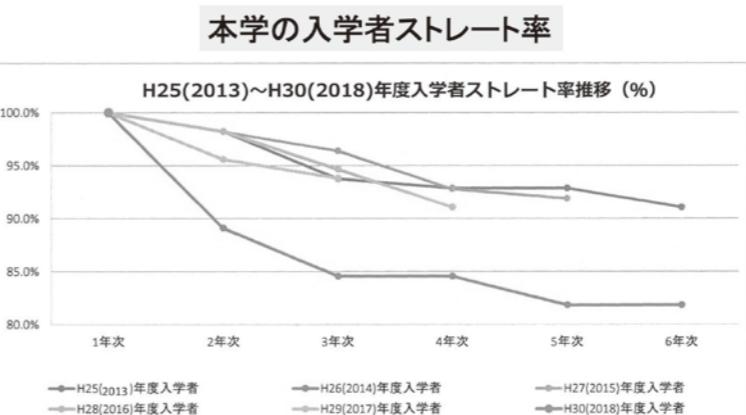
【資料3】

ガバナンスが問題視されるに至り、研究者へのガバナンス体制の見直しや学生や研究者へのコンプライアンス教育を行い、二度とこのようなことが生じないように努めています。

入試については一昨年の東京医大問題に端を発し、文科省からより一層透明性、公平性の高い入試が求められています。18歳人口の減少から医学部でも志願者数は減少傾向にあります。本学においても 3400名を頂点に現在は3200名ぐらいまで減っています。現在、国が唱える高大接続について、特に学力の3要素を試す入試が求められています。これまでのような知識のみを問う入試から表現力、判断力、思考力を試すAO入試の導入が注目されています。2年前から医学部に、今年から看護学部に「建学の精神入試」(AO入試)を設けました。医学部の建学の精神入試ではセンター試験での足切りはありますが、小論文、面接を重視し、看護学部では英語の文章を読んで意見述べさせる小論文と面接で合否を決定します。これまでの入学者の成績を学年ごとに調査しますと、入学時の成績と卒業時の成績には相関はみられません。また記述式の一般入試とマークシートのセンター試験で入学した学生間においても相関はありません。むしろ2年生の最終成績と卒業時の成績に相関がみられます。このような傾向は

看護学部や他大学医学部でも同様の傾向が見られます。何故本学に入学したいのか、どのような医師になりたいのかなどについて動機が明らかでモチベーションの高い学生を求めていく必要があります。建学の精神入試で入学した学生について今後フォローしていきます。また皆さん方は本学に入学した学生が何割くらい6年間で卒業しているのか（入学者ストレート率）ご存じでしょうか（資料4）。本学では約90%を超える学生が6年間で卒業していきます。国公立大学医学部ではほぼ100%ですが、私大医学部の中では本学は相当高いストレート率だと思います。今後も素晴らしい入学者を集めて高いストレート率と国試合格率を維持していきたいと思います。

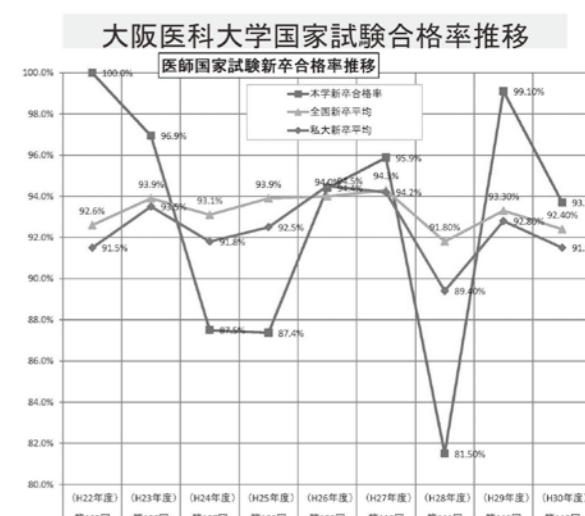
資料4



【資料4】

医師国家試験の新卒者合格率については2年前に皆様方に大変ご心配をおかけしましたが、昨年は99.3%，今年は93.7%でいずれも国公立全体の平均を上回ることができました（資料5）。本学の学生はよくできるのですが、いつ本気に勉強するのか見ていてひやひやする学生も多く、そのような学生にはメンターの先生を充て個別的に生活面も含めた指導を行っています。

2021年4月1日に本学は大阪薬科大学と大学合併を行う予定です。新大学名については現在、



【資料5】

理事会で大阪医科大学と決議されています。各々の大学は互いに古い歴史を有する大学です。それゆえに統合する上で教育や研究組織について多くの問題を抱えています。私は一昨年から大学統合に向けて「大学統合に関する分科会全体会議」を主催しています。教育、研究、教学施設、学生交流、国際交流、規則規程等をWGに分け、各WGで本学医学部、看護学部と薬大の各領域の関係者が討議し、月に一度全体会議で報告し、解決すべき課題点を抽出しています。その成果の一つとして、来年度の新入生学外合宿については淡路島で医学部、薬学部、看護学部合同で行うことになりました。

最後になりましたがバイオリニストの五嶋龍のエッセイに書かれた言葉、If you see something, say something. に共感し、その言葉を借りて大阪医科大学 HP の学長室 Open Mind に If you see something, say something. So, change yourself and change OMC together. を掲げています。本学のすべてのステークホルダーとともに世界有数の医療系大学をめざしていきたいと考えています。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

東京オリンピックの年に思うこと

**東日本支部長
酒谷 薫（学30期）**

2020年は東京オリンピックの年である。都内はいたるところで工事が行われ、7月の開催に向けて急ピッチで準備が進んでいるようである。1964年にも東京でオリンピックが開催されたが、ちょうどこの年、父が東京大森にある東邦大学病院に転勤になり、一家で東京に引っ越してきた。あの当時の東京、特に町工場の多い大森は公害が酷く、空気のきれいな神戸から引っ越した第一印象は、「空気が臭い！」であった。また、川の水の色が絵の具のような緑色をしていたのも驚きであった。今の東京からは信じられない光景が至る所に見られたのである。それでもオリンピックを生で見れたのはうれしい思い出である。大学の宿舎近くの大森街道を走る聖火ランナーを人垣の間から一瞬目にしたこと、家族で行った代々木競技場ではるか後方の席から見たレスリングの試合、そして三波春夫が歌う東京五輪音頭。それから50年以上経った今、こんなにきれいになった東京でもう一度、オリンピックが開催され、そして自らが東京で働くようになるとは夢にも思わなかったのである。

その当時、小学3年生であった私は、半世紀あまりの年月を経て、とうに還暦を過ぎてしまった。一人息子も30半ばを過ぎ、幸いなことに孫も二人できた。定年後は関西に戻りどこか老健に再就職して、少しゆっくりした生活をしようといささか甘い考えにふけっていた。実際、還暦を過ぎたころから病院勤めの後輩たちに声をかけていたのである。ところが平成最後の年になり、そろそろ日大の定年に差し掛かった頃、東京大学に再就職する話が舞い込んできた。IoTやAIを使った健康管理システムの研究開

発をするというのである。認知症の予防法の開発も視野に入れるという。日大ではよく似たテーマで研究をしていたので、とにかく応募することにした。教授選考は思いのほか厳しく、一時は諦めかけたが何とかパスすることができた。4月に就任する予定が1か月遅れたため、令和元年5月からの就任となった。卒業してから、大阪医大、ニューヨーク大学、エール大学、札幌医大、北京日中友好病院、日大医学部、工学部と色々な施設では働かせて頂いたが、思い返すと、どの施設でも山あり谷ありの毎日であった。東大のプロジェクトはこれから5年続くことになるが、これまでと同じように山あり谷ありの日々が続くのであろう。2020年の年の初めに、改めて気を引き締めていこうと心に誓うのである。

新年のご挨拶

**京都仁泉会 会長
松本恒司（学26期）**

新年あけましておめでとうございます。仁泉会会員の皆さまのご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

京都仁泉会はこれまで学術講演会、夏の音楽の夕べ、ゴルフコンペなどを毎年開催して参りました。平成31年2月の学術講演会は蘇生会総合病院副院長河野龍而先生から「高齢者循環器疾患診療の現状と今後の課題」と題してご講演を賜りました。また、河野先生が母校第3内科時代から主治医をされて来たとのことで、大先輩、元外務大臣の中山太郎先生が大阪からお越し頂き、懇親会でもお元気なお姿で一同感銘を受けました。

令和の新時代になり、5月11日には総会を開催。学術講演会では大阪医科大学 循環器内科学 星賀正明 教授より「最近の循環器医療：特に動脈硬化と心不全について」の分かり易いご

講演でした。

恒例の8月末の「音楽の夕べ」は多数の先生が参加されました。幅広いジャンルで活躍され、京大出のテノールとして有名な、加藤ヒロユキ氏をお招きし、魅惑の声、巧みな話術で素晴らしい宵をもてました。さらに、大阪薬科大学同窓会 京都支部長 中嶋一郎先生ほか2名の先生にも出席を頂き良い交流の場ともなりました。

11月16日には4月から日本大学 神経内科学分野の主任教授に就任された中嶋秀人先生から「3分間神経診察法：症状から一発診断」との明解な講演を頂きました。難解な神経内科学の話と異なり、明日からの日常診療にも役立つ内容でした。

来る令和2年2月1日には新しい企画として「京都仁泉会 新春の集い」を開催いたします。母校 小児科学教授に就任され京都仁泉会会員でもある芦田 明先生のご講演も予定しております。

さて年一度、発行している「京都仁泉会会報」も40号になりました。表紙は京都医家芸術展の重鎮、田代 博先生の版画です。お近くの太秦映画村、宮本武蔵に扮する先生とご家族とのことです。また、今年の仁泉会総会は京都。(5月31日(日)：ホテルグランヴィア京都)です。今年もよろしくお願ひもうしあげます。



新春のご挨拶

**大阪府支部連合会会長
霜野良一（学28期）**

仁泉会会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年は5月に平成から令和に元号が変わり、10月22日には新天皇の即位式が執り行われ、雅子皇后陛下の十二单のご装束の神々しさに感動いたしました。11月10日には快晴の天気の下、即位祝賀パレードが行われ、沿道には約12万人が詰め掛けて祝福しました。当日、私は甥っ子の結婚式が品川であり、東京おりました。今後、祝賀パレードのニュースや映像が流れる度に、この記念すべきおめでたい日に結婚式を挙げたのだと結婚記念日を思い出すでしょうとのスピーチもありました。

昭和29年生まれの私にとって、平成生まれは若いというイメージがありました。今後は令和生まれの子供達が増えてきます。昭和、平成、令和と三つの時代を経てきた我が身がいよいよ老齢期に入ったのだと実感します。

スポーツの世界では昨年1月にテニスの大坂なおみ選手が全豪オープンで4大会2回目の優勝、8月には女子ゴルフの渋野日向子選手が20歳の若さで全英女子オープン優勝し、笑顔が素晴らしいことからシンデレラ・スマイルと呼ばれました。そして9月20日にはラグビー・ワールドカップが開幕し、日本は予選全勝で決勝トーナメントに進出するという期待以上の活躍で、おおいに盛り上がり日本中がラグビーブームで沸きました。私も日本の全試合を生で見ましたが興奮し過ぎて見終わった後はグッタリしていました。

しかし良いことばかりではなく、一昨年に統いて台風で甚大な被害がありました。台風15号の強風で高圧電流の送電鉄塔が倒れ千葉では停電が長く続きましたし、台風19号の豪雨で7

つの県の合わせて71の河川が氾濫し140ヶ所で堤防が決壊するという記録的な豪雨災害となりました。

私の属する大阪住吉区医師会でも、災害時の情報網作成などに取り組んでいます。未曾有の災害とか記録的な災害ということを度々聞くようになつた昨今、自分だけは大丈夫、何とかなるだらうという安易な考えは捨て、万一に備えることが大切かと思います。

仁泉会大阪府支部連合会としては、昨年5月に支部長会、11月に学術講演会を開催しました。講演会では眼科の小島祥太先生に緑内障、腎臓内科の美馬晶先生には糖尿病性腎症や糖尿病薬(DPP-4阻害薬、SGLT-2阻害薬)のお話を頂き大変勉強になりました。参加者も51名と例年よりやや多かったですが、来年は更に多くの先生方に参加して頂きたく思います。

会長になってからは、支部会活動の活性化や会員相互の親睦などに力を入れてきましたが、昨年6月には浪速区支部長の久保田泰弘先生のご尽力で浪速区、西区、中央区東、中央区南の合同支部会が開催され、11月には港区支部長の奥村隆司先生のお力で港区、大正区の合同支部会が行われました。今後もなお一層、会員の先生方のお役に立てるよう頑張りたいと思いますので何卒宜しくお願い申し上げます。

天満橋での開業医20年目の新春を迎えて

**中央区東支部長
長野文昭(学32期)**

新年明けましておめでとうございます。私が昭和52年に軟式テニス部に入部した時のキャプテンの霜野良一先生が仁泉会大阪府支部連合会会长に就任された関係で、昨年より大阪市中央区東のお世話をさせていただいています。この度仁泉会のご依頼で、ご挨拶を兼ねて書かせ

て頂くことになりました。

(1) 大阪市中央区東仁泉会の現況

大柴三郎教授の退官前に第二内科から第一東和会病院に勤務することとなり7年が過ぎたころ、内科・胃腸科・小児科の医院継承の話があり、飯田稔理事長に何とか了承していただき、天満橋で開業することとなりました。

全く見知らぬ土地での開院で、医師会入会時に事務長より挨拶を指示された先生にも母校出身の先生はなく、途方に暮れたことを覚えていました。近くの大坂肛門科診療所を佐々木巖・美礼先生がされている事が分かりお話をするとようになり、同級生の丸川恭子先生が谷四で耳鼻咽喉科医院を継承され、診々連携をお願いできるようになりました。最近、第二内科の村野実之先生が道修町で、精神科の瀬浦敏志先生が北浜で開業され、医師会活動にも積極的に参加され、心強く思っています。仁泉会としての集まりはなかったのですが、昨年浪速区の久保田泰弘先生から浪速区と中央区と西区の合同での支部懇親会をとのご提案があり、令和元年6月8日に初めて仁泉会としての集まりを持つことができました。中央区東には大阪医療センター・大手前病院・大阪国際がんセンターの大病院があり、母校出身の先生も多数勤務されています。今後優秀な勤務医の先生方が、地区仁泉会との病診連携と同級生との久々の懇親の場にしていただけるようになればと思っています。

(2) 若竹医師の会

年に4回リーガロイヤルホテルで、母校出身の開業医の勉強会が開催されています。森川浩志先生、本出肇先生、久保田泰弘先生が発起人となり、代表世話を石田徹先生がされています。毎回、母校出身の先生方が講演されておられます。世話人会では毎回矢野貴人教授が、母校の現況をお話しされています。今までの研究会次回の研究会の詳細は、ホームページ：<http://wakatakedoctor.com>をご覧ください。



(3) 5.8会ゴルフコンペ

毎年11月23日に学32期のゴルフコンペが開催されてきました。昨年は仁木正己先生の幹事で、秋の晴天の下、枚方カントリー倶楽部で開催されました。

今年からは11月23日にこだわらず、みんなの集まりやすい日に開催しようという事になりました。いつまでも元気で旧交を温めながら、楽しくラウンドできればと思っています。

(4) ソフトテニス部OB会

4年間ペアを組んだ岡博史先生が事務局長をされ、隔年でOB会総会が開かれるようになりました。幹部学年で西医体で3位になり、全医体で北海道のテニスコートでプレイしたことが、懐かしく思われます。令和初の第5回OB会総会は、令和2年2月8日にホテルグランヴィア大阪で開催されます。

新年のご挨拶と支部会だより

**港区支部長
奥村隆司(学31期)**

新年明けましておめでとうございます。仁泉会の先生方に於かれましては健やかによき新春を迎えられたことと謹んでお慶び申し上げます。港区支部(仁泉会会員数12名)は年1回総会と懇親会を行なっております。今回、懇親会を大正区支部(支部長・学22期石村先生)

と合同で行いました。港区支部から9名、大正支部から4名参加されました。ご存知の先生も多いかと思いますが、港区と大正区は隣の区ですが、尻無川を挟んで区切られているので地盤がりはなく、橋と甚兵衛渡しという小さな渡し船で行き来します。その為、お互いに近くて意外と遠い区なのです。令和元年11月16日(土)、港区弁天町駅近くにあるアートホテル大阪ベイタワー20F「割烹 みなと」で行いました。私個人的には大正区の一ノ名先生(学31期)は同級ではありますが、他の先生は初めてお会いする先生方でした。他の先生方も同様で名前は知っているがお互い初対面がほとんどでした。懇親出来るか不安でしたが杞憂に過ぎず、宴会が始まると皆すぐに打ち解け会話が盛り上がり、「君は私の小学校の後輩やんか」「その時の講師は先生でしたか」「いつも紹介しているのに初対面ですね」「教養時のXX先生にいじめられたなあ」「学生の時あそこでよく食べたね」「なんや自宅はご近所やんか」など話が尽されることなく、あっという間に3時間が過ぎました。やはり学年は違えど同じような価値観を持ち同じ空間で過ごした同窓をいうのは心を許すものがあります。仁泉会会員も時代の流れと共に高齢化と若い世代とのコミュニケーション不足がそれぞれの支部で生じております。それはそれで仕方が無いと言えばそれまでですが、母校の発展やそれを支える同門会の充実は誰もが願っております。同門会は仲がいいのは家族と一緒にです。理由など無いのです。また、同業種でありますので、診療をする上で病診連携、診診連携、病病連携の中で顔を知ってコミュニケーションが取れている方がスムーズに連携出来るし患者さんのためになります。今回、大正区との合同懇親会を開けた事はとても有意義でありました。**他の支部の先生方にも是非お勧め申し上げます。**

「人生最大の幸福は一家の和楽である。円満なる親子、兄弟、友人の愛情に生きるより、切なものはない」 野口英世



最後列左から 高瀬卓志（学37期）多根一之（学33期）大塚穎宏（学14期）石村俊信（学22期）

北村彰英（学24期）福本健治（学24期）

2列目左から 柳川伸子（学34期）中山富雄（学30期）西山和夫（学25期）

前列左から 一ノ名正（学31期）奥村隆司（学31期）木戸友幸（学26期）山田卓（学37期）

「働き方」改革とチーム医療

生野区支部長 村田高穂（学22期）

令和2年の初春をお慶び申し上げます。

仁泉会の同窓の皆様には、ご健勝のことと存じます。まずは、皆さまの益々のご活躍を祈念申し上げます。

2019年4月、「働き方」改革に関する法案が制定されました。

この法案は、少子・高齢化に伴う実労働人口の減少、企業のInnovationやIT導入による労働の質の変化、とともに働き方(decent work)の実現など、私たちの「働き方」についての改善と変革が目的とされます。ただし、医師の「働き方」改革については、5年後の実施予定になっています。

医師の「働き方」について、USAのER施設の若い医師を対象とした「work style and motivation」に関するアンケート調査で、Decent workの条件は、「働きやすい職場環境、家族とくつろぐ時間、適切なサラリー」が上位3項目でした。また、労働のMotivationとなる要件は、「安定した生活、自己啓発の可能性、労働への感謝」が挙げられました。この調査結果は、医師のみならず全ての医療従事者の「働き方」を考える参考になると考えられます。

医師の「働き方」の基本は、当然ながら医局内での「チーム医療」です。脳卒中診療を例に取りますと、脳卒中診療のセンター化に伴い、当院もPrimary Stroke Center(PSC)に認定されました(2019年9月)。その結果、脳神経外科医師の増員だけでなく、脳卒中専門医、脳神経血管治療専門医、脳神経内科医、循環器内

科医など、より専門的な医師チームの連携が必要になります。

看護師の「働き方」は、医療従事者の中で最も変化したように思います。

看護師は、患者さん・家族との情報聴取の最先端に位置し、他のスタッフとの情報共有を密接にすることで、「チーム医療」における多職種連携の中心の役割を担います。さらに、権限移譲により、医師ならびにコメディカルとともに、直接医療に携わることができるようになった(Nurse Practitioner=NP)。

薬剤、栄養、画像・生検査、医療情・総務・MSW、リハビリテーションなどコメディカルスタッフの「働き方」については、これまでの専門性とともに、他の職種に対する理解と情報共有を行うことで、「チーム医療」としての業務分担が必要になります。

「チーム医療」を「働き方」改革の観点から言えば、多職種による分業(Task Share)です。多職種スタッフが、互いによき理解者であり協力者であることが必要です。

以前、「チーム医療」の条件をスタッフ間で考えていただきました。

その結果、「信頼(Trust)・尊敬(Respect)・情報共有(Information Share)・交流(Communication)・労り(Kindness)」というkeywordsが選出されました。これは、分業の条件とも一致します。分業は、「自分たちの仕事が増える」ではなく、Decent Workへの「働き方」改革と考えるべきです。

チーム医療による「働き方」改革が、「患者さんの喜び」に繋がることを切に願っています。

私たちの「チーム医療のクレド(誓い)」です。

- 1) スタッフ間交流(Communication)
- 2) 多職種間連携(Collaboration)
- 3) 患者・家族とスタッフ間協力(Cooperation)

新春を寿ぎて

阿倍野区支部長 福本敏子（学24期）

新年あけましておめでとうございます。阿倍野支部は最高齢は高医20期の山本宰啓先生、最も若い先生は学55期の中矢絵里先生と幅広いメンバーで活動しています。毎年、夏には納涼会、秋には総会と懇親会を企画し、ご馳走をいただきながら懇親を深めています。阿倍野区には大阪鉄道病院に4人の部長とその下に同窓の医員がおられ、平素は病診連携でいぶんお世話になっています。また、現在、阿倍野区医師会長を学35期の岡成樹先生が務めておられますので、仁泉会阿倍野支部としては大変誇らしいことあります。阿倍野区は大阪市の南端にあり、本部のある高槻市からは遠距離にありますので、同窓の会員同士助け合い病診連携、診診連携を心がけています。今後も亡き藤本正三先生が願っておられた支部活動の更なる活性化をめざして支部会員一同心を一にして頑張ってまいります。同窓の先生方のご支援ご鞭撻をよろしくお願いし、年頭のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

**高槻市支部長
保田 浩（学31期）**

仁泉会の皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年もまた地球温暖化が原因と思われる災害が各地でおこりました。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。今年は東京オリンピックが開催され、明るい良い年であることを願っております。

私は仁泉会高槻支部長として、一昨年より率いております。支部の行事としては毎年6月に総会・懇親会を開催するのみでしたが、昨年はじめてゴルフコンペを開催いたしました。詳細はこの新年号に掲載させて頂いておりますのでご覧下さい。大阪医大には、他大学にはない良い校風があります。そこで育った同門との絆は大事なものであります。今後も大学のお膝元であり、また最も会員の多い高槻支部をより活性化してゆきたいと思っております。今年の仁泉会高槻支部総会・懇親会は、6月13日(土)に「リッツカールトン大阪」で開催いたします。母校の教授の先生方も含めて、たくさんの会員の方々に参加していただき交流を深めてほしいと考えております。何卒よろしくご参加お願ひいたします。

最後に、今年も仁泉会の皆様にとってすばらしい年でありますようにお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶と 仁泉会堺支部総会の報告

**堺市支部長
村木宏要（学27期）**

仁泉会の皆様、新年あけましておめでとうございます。昨年は山あり谷ありの一年でしたが、無事総会をむかえることができました。昭和14年頃から続いている堺支部は現在、会員は44名と減少ぎみですが今年は新入会員が2人増えました。まだ未入会の方も多数おられます。尚、堺支部では支部会員の会費は月2000円です。仁泉会本部会費及び大阪府支部連合会会費は支部会費から納入しているため納入率は100%です。一方、いくつか問題もあります。ゴルフ会が中止状態です。また、懇親会に参加される先生方も同じ顔ぶれが多く、次世代への移行がスムーズにできているとは言えません。

仁泉会堺支部は毎年11月末の総会、年2回の食事会にて会員の懇親につとめています。

1 令和元年総会

本年は11月30日（土）堺市内「かき豊」中店にて、開催いたしました。一方、本年8月、学11期、定延和夫先生が逝去されました。10年以上大阪府連理事及び堺支部支部長としてお世話くださいました先生の突然の死去に会員のショックは大きいものでした。会員一同、80年近く続いている支部を継続できる様頑張ります。

2 講演会

本年度は、一般社団法人大阪医科大学仁泉会新理事長 安藤嗣彦先生（学20）に「大阪医科大学仁泉会12代理事長就任にあたり」として、先生の今後の抱負とともに、大学内の最新の情報をお話しいただきました。

講演の後、小山一男先生（高17）に乾杯発声をお願いし懇親会に移りました。（堺支部会員

で唯一の大坂高等医専卒業です）安藤理事長にも輪に入っていただき引き続きいろいろな話が飛び交い話はつきませんでした。

最後に、記念撮影、校歌合唱でお開きとなりました。

出席者（敬称略）

小山一男（高17）後藤紀夫（学14）
塚田裕久（学17）斎藤振二（学21）
宮前有子（昭和大学医S51年卒）
村木宏要（学27）中田英二（学28）
藤田素樹（学28）武市直範（学30）
北川友朗（学33）田村友彦（学36）
中野慎一（学37）疋田米造（学37）
北村 洋（学40）天上俊之（学40）
萬代正治（学41）近藤圭策（学45）
住吉一浩（学45）吉良俊彦（学48）
神藤 理（学48）吉川信彦（学56）

3 令和元年食事会

- 1) 春 平成30年6月2日（土）
大阪西梅田 広東料理 大阪 聘珍樓
ヒルトンプラザイースト7F
- 2) 秋 令和元年10月27日（日）
松茸バス旅行
大堰川畔せせらぎ亭 八光館
京都府南丹市八木町
マツタケをたらふくいただきました。



3列目左より 近藤、住吉、疋田、天上、神藤、吉川、吉良

2列目左より 中野、北川、宮前、田村、北村、藤田、萬代

前列左より 中田、村木、小山、安藤、後藤、斎藤、塚田、武市

あけましておめでとうございまーす

「謹賀新年」

河内長野市支部長 追矢秀人（学44期）

新年あけましておめでとうございます。昨年元号が変わり、仁泉会会員の先生方に於かれましては、恙なく新しい年をお迎えの事と存じます。昨年1月より前支部長の村田貞史先生（学22期）より引き継いで、河内長野市支部長に就任させて頂きました学44期の追矢秀人と申します。

若輩者の支部長ですが、宜しくお願ひ致します。さて河内長野市支部に於きましては、一昨年に続き、昨年11月9日に支部会を開催しました。参加者は7名で学44期の金村昌徳先生に「卵巣癌治療 最近の話題」というテーマで講演して頂き、有意義な意見交換もあって少人数ではありますが盛会となりました。本学からは少し離れておりますが、平素は南河内の河内長野市の地で勤務医、開業医の先生方共に地域医療にご尽力頂いております。また河内長野市医師会では、在宅医療・介護連携推進事業の一環として大阪府下では、浪速区医師会、藤井寺市医師会に次いで、3番目に病状急変時対応システム（通称ブルーカードシステム）を平成28年11月に導入しました。丸3年が過ぎましたが、システム立ち上げには私も担当者としてかかわらせて頂き、現在ブルーカードの発行枚数も順調に増えてきています。このシステムが医療パスポートとして稼働することにより、高齢化率33.1%と大阪府下でも高齢化率の高い河内長野市では、病状急変時の病院のたらいまわしが減り、救急車の病院搬送到着時間の短縮やウォークイン受診も可能なため、無駄な救急車のコール数も減る効果があると思われます。

また登録病院や協力病院、消防署、市などと年1回委員会で意見交換を行っていますので、今後地域医療に貢献出来るシステムに醸成することを期待しています。ところで私事ですが、大

学時代はゴルフ部に所属していました。数年前よりゴルフ部OB会が開かれるようになりました。先輩、後輩、現役部員との交流が出来るようになりました。学生時代の懐かしい話題や仕事の情報交換など有意義な時間を過ごせています。また河内長野市支部の先生は体育系文科系とも大阪医科大学の伝統の縦のつながり、横のつながりが強く心強い限りです。今後は支部会員の拡大に努めていきたいと考えています。今年も仁泉会の皆様方のご協力をお願い申し上げ年頭の挨拶とさせて頂きます。

奈良県支部長に就任して

奈良県支部長 中尾重昭（学22期）

新年明けましておめでとうございます。

平成31年1月から前支部長の西浦孝彦先生（学13期）より支部長を引きつぎいたしました。支部長になっての最初の仕事は仁泉会総会への出席でした。毎年5月末に開催されます。

令和元年の総会では、大学及び仁泉会の現状を再確認できました。そして8月の第1日曜日奈良市内にある飛鳥荘での支部総会にて会員の承認をいただき正式に支部長に就任いたしました。

今年の支部総会には、同窓会理事長の安藤先生と共に、大阪薬科大学との合併に伴い同窓会の交流も進めるためにも、今回大阪薬科大学同窓会奈良県支部長の小原氏も出席していただきました。そして私が9月に大阪薬科大学同窓会奈良県支部総会に奈良県支部代表として出席いたしました。

各支部でも同窓会の交流を始められていることですので、奈良県支部では年2回開催しているゴルフコンペでも交流していきたいと思っております。

さて個人的な事ですが、野球、ゴルフ好きの

私にとって昨年はスポーツ界で色々な事がありました。3月にはイチローの引退があり（日本での最後の試合では、1本でもヒットを打って欲しかったですが、さすがに長期の実戦ブランクがあったので無理だったのでしょうか）、6月にはNBAドラフトで八村塁が一巡目で指名を受け、8月には全英女子オープンで渋野日向子が優勝（テレビ中継を夜中に見ており、18番での強気なパットと笑顔が印象的でした）。9月には5年ぶりにジャイアンツがセリーグで優勝（私はジャイアンツファンですが日本シリーズではソフトバンクに4連敗）、10月にはラグビーワールドカップで日本がベスト8に進出し、多いに盛りあがった年でした。そして令和2年7月には、オリンピックがあります。東京までチケットを手に入れて見に行く元気はありませんが、テレビを通じて楽しみたいと思います。

スポーツを通じて今年も少しでも明るい年になることを願っております。

新年のご挨拶

和歌山県支部長 田伏俊作（学20期）

新年あけましておめでとうございます。一昨年から支部長を拝命されて2年目を迎えます。一昨年、和歌山県支部の名誉会員であられる中田勝次名誉教授が、ご無理を押してご出席下さいました。昨年は欠席されましたがお元気でお過ごしのご様子ということで安堵しております。

昨年は計画していた大阪薬科大学の和歌山県同窓会（紀薬会）との交流を初めてもちました。まず両大学の役員だけの顔合わせを6月に、そして7月には3年に1度の紀薬会の総会に私と副支部長の湯川裕史先生が招待され、そして11月の仁泉会の総会に紀薬会から会長と副会長をお招きしていずれも和やかに親睦を深める

ことができました。今後来年の統合合併に向けて当分役員だけでも交流を深めていければと考えております。

昨年の総会では学27期卒の兵庫医科大学先端医学研究所、先進脳治療学名誉教授の松山知弘先生の「脳卒中の再生療法」という演題で最先端の研究の一端をご講演いただきました。癌等の治療もさることながら脳卒中が少しでもよみがえればと願うばかりです。

今後、和歌山県支部も今まで出席されていなかった先生方や若い先生に一人でも多く総会に出席いただけるよう役員一同頑張って、親睦を深めてまいりたいと考えています。

本年も皆様方にとっても良き年でありますように祈念して新年の挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

新年のご挨拶と令和元年度 仁泉会川西支部総会の報告

川西市支部長 土肥恒夫（学28期）

令和2年新年あけましておめでとうございます。仁泉会の皆様におかれましてはよき正月を迎えられたことと存じ上げ、お慶び申し上げます。

さて、わが川西支部では、ひさしぶりにA会員の新規入会が3名もあり喜んでおります。昨年10月26日に今年度の支部総会が柳川哲司先生（H10年卒、学47期）の肝いりで、新地割烹月波（げっぱ）で開かれました。会員16名中8人参加、このうち3名の新規開業の各先生からそれぞれ挨拶があった。波江野茂彦先生はS.62卒、学36期である。当支部で初めての訪問専門診療所だ。我々もどのように患者を紹介すべきか興味津々、先生の説明に聞き入った。加藤宗寛先生はS.59年卒、学33期。川西市医師会

副会長として仁泉会に尽力され、また、我々を熱く指導していただいた父親の跡を受け、勤務先の定年後リハビリを入れたユニークな婦人科を開業されました。酒井優希先生はH27年卒、学64期のいまだ市立池田病院において研修中のほやはやだ。我らが警察医としてお世話をなっていた父親の急死を受けての急遽の継承開業に至った。支部全員で応援していくと誓った。今後、順調に研鑽を積み発展していかれることを祈ります。

料理は、松茸焼きに松茸の土瓶蒸し、伊勢エビの造り、クエ鍋と豪勢で全員が舌鼓を打ち話題に花咲いた。何と言っても県、市の医師会次年度の役員人事だ。オフレコだが、うれしい情報がもたらされた。支部としては一致団結して盛り立て、協力していくつもりだ。専門領域以外の患者の頼み事や、これから脚光を浴びていくであろう在宅医療への紹介の仕方等尽きたことなく話が弾み、あっという間に3時間が過ぎお開きとなった。来年度は加藤先生のお世話を決まり、再会を誓って散会となった。

参加者（敬称略）

松尾功啓（S47）土肥恒夫（S54）加藤宗寛（S59）
波江野茂彦（S62）織田行雄（S63）北田学利（H7）
柳川哲司（H10）酒井優希（H27）

（）内は卒業年度

令和初正月のご挨拶

西宮市支部長 岩下敬正（学36期）

新年明けましておめでとうございます。

昨年の台風15号、19号により被災された方に心よりお見舞い申し上げます。

2019年は1月に大阪なおみが日本人初の全豪テニス制覇という喜ばしいニュースに始まりましたが、その後米中貿易戦争、日韓関係の最悪化などを経て令和元年が幕を開け新しい時代が

始まりました。しかしその後も高齢ドライバーの暴走死亡事故の頻発や京都アニメーションの放火殺人事件など病める日本社会の痛ましい事件もありました。

今年こそ大きな災害や事件のない一年であることを祈っています。

私は昭和62年に卒業後、母校第二内科学教室、第二病理学教室を経て平成14年より西宮市で内科・消化器科を開業しています。

平成19年に学27期 岩田隆先生に誘われ支部会計係に就任して以来、仁泉会西宮支部役員を続けてきましたが、昨年7月の仁泉会西宮支部総会で学31期 原均先生より支部長を引き継ぎました。

さて皆さんご存じのことだと思いますが、西宮市は兵庫県の南東部、大阪と神戸両市のほぼ中に位置し、総面積 100.18 km² の南北に長い市街地で、北部の山地部と南部の平野部に分かれています。人口は49万人弱ですが、南部の約半分の市域に人口の約90%、44万人が集中しています。南部には北から阪急神戸線、JR神戸線、阪神電鉄本線が東西に走っていてそれぞれの沿線に市街地が開けられています。

阪神タイガースの本拠地で高校野球でも有名な「甲子園球場」もあり、「宮水」を使った酒造の町としても有名です。

そして西宮市の医療環境ですが、兵庫県の平成30年医療施設調査によると、兵庫医大病院を含め病院が25施設、診療所が520施設開設されていて、特に西宮北口周辺はアクセスの良さから日本有数の医療機関密集地域となっています。仁泉会西宮支部会員の関連施設は、西宮協立脳神経外科病院およびリハビリテーション病院をはじめとして病院6施設、診療所38施設となっています。支部会員数は概ね70人です。

西宮支部役員は支部長、副支部長、会計、幹事3名（過去の役職経験者）の6名で年数回の飲み会を兼ねた幹事会を開き、年配の先生方と

若い先生方の総会への参加をいかに増やしていくかに知恵を絞っています。最近の支部総会の出席率は約50%の35人前後となっています。

西宮市では自身の専門性を生かした医療をクリニックで提供する先生方が多くなっています。仁泉会西宮支部会員の間でお互いに顔見知りの先輩、後輩、同級生のクリニック、専門病院を紹介、逆紹介できる診診連携、病診連携がいつでもできる仁泉会西宮支部に育てていきたいと思っています。

最後に、今年も仁泉会の皆様方にとってよき一年となることを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

新春のご挨拶

岡山県支部長 小出尚志（学28期）

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、新天皇の即位により新元号・令和の時代が始まりました。岡山支部の令和元年を振り返りますと、特筆すべきは4月より川崎医大・消化管内科学の特任教授として赴任されました学部35期の梅垣英次先生をお迎えしたことです。支部会員一同、大変に心強く活気づきました。また、学部28期の石岡達治先生が9月に岡山県知事表彰（地域医療功労）を受賞されたことも嬉しい出来事でありました。現在進行形の報告として、学部31期の渡辺英臣先生は児島医師会（倉敷市）会長として卓越した地域のリーダーシップを発揮されておられます。一方、残念なことは、敬愛すべき大先輩・浅羽先生（学部7期）の訃報がありました。米国やスエーデンで長く医師として診療にあたり、帰国後は地域医療に邁進されてこられましたが、ご逝去を機に浅羽医学研究所附属岡南病院が廃院に至ったことは地域にとっても大きな損失でありました。ご冥福をお祈りいたします。

さて、現在の岡山県支部会員数はおよそ60-70人です。主たる会員構成は、母校を卒業の後に地元岡山へのUターン組の先生方と、倉敷中央病院を中心に研修やキャリアアップを目的に県外から赴任され、そして比較的短期で異動されて行く若い先生方に大別されます。最近は後者が増えてきて正確な会員情報の把握が難しくなっていますが、支部活動が同窓生の情報共有や懇親・交流の場にとどまらず、将来に向かってチャレンジする若い先生方を支援できるように取り組んでいきたいと思っています。

今年の干支は子（ねずみ）です。「ねずみ算」と言われるよう、どんどん子供を産んで数を増やしていくねずみは「子孫繁栄」の象徴でもあります。また、十二支のスタートに位置する子年は新しい運気のサイクルの始まりともいわれ、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年を機に未来への大いなる可能性を期待したいところです。

我が母校・大阪医科大学の発展と仁泉会の会員の皆様のご健勝を祈念いたしまして、岡山支部からの新年のご挨拶とさせていただきます。

島根県支部長に就任して

島根県支部長 林孝乾（学30期）

私はこの度、島根県の支部長に就任した林と申します。

昭和56年卒の学30期です。現在63歳になります。

平成16年、48歳までは母校の整形外科の医局に所属し、関連病院に勤めていましたが、父が亡くなり、かなり迷いましたが、30年ぶりに島根に帰り、父の経営していた整形外科有床診療所を継承いたしました。

これを読んでいる方々で、有床診療所をやっておられる方は少ないと思いますが、現在、有

床診療所は減少の一途をたどっています。私は縁あって現在、日本臨床整形外科学会の有床診部会の部会長をしており、全国有床診療所連絡協議会と連携して有床診療所の減少を少しでも食い止める活動をしています。診療所の仕事の方は多忙で、年間200件以上の手術をほぼ一人でこなしています。専門は脊柱変形で、脊椎の手術を主に行っており、おかげさまで手術待ちは2から3ヶ月くらいで、12月上旬の現在、2月下旬でないと予定手術は入りません。

さて、転じて島根県に目をやると、皆様、島根県と鳥取県の区別が直ぐ付きますか？どちらも山陰地方にあり、形も字面も似ているので、しばしば混同されます。大阪や東京で島根県というと、どこにあるのか分からぬよう、7割方くらいの人は目が泳ぎます。島根県の方が西にあります。私は出雲市に住んでいますが、出雲という地名は皆様ご存じだと思います。古事記で、高天原から須佐之男命（スサノオノミコト）が最初に降り立った地上が出雲です。

実際には大和朝廷が成立する前、かなり有力な勢力があったようです。私が高校を卒業して出雲を出るまでは古事記の内容は單なる伝説に過ぎないという雰囲気が出雲にもあったのですが、その後色々な遺跡が発見され、状況が変わってきました。出雲大社に訪れる人も増えてきています。

しかし、県全体でも人口68万と、高槻市二つ分くらいしかありません。そのため、色々な自虐ネタがあります。自虐ネタカレンダーが毎年売られており（売れているかどうかは知りません）、今年度のキャッチフレーズは「島根は日本人ですらどこにあるにかわからない最後の楽園」となっています。

島根県の仁泉会はここ10年くらい開かれておらず、大阪医大出身者がどのくらいいるか把握出来ていません。また、島根県は横に長く、東の端の安来市から、西の端の益田市まで直線距離で153キロあり、しかも高速道路は一部だ

けでJRの特急が1日3本あるだけという状態で、なかなか県内で統一した会を開きにくい状況です。本年（平成31年）の3月に前任者から仁泉会の島根県の支部長になることを依頼され、本当は令和元年度に島根県の仁泉会を開きたかったのですが、診療所の仕事と、臨床整形外科学会の会員部会の仕事で非常に忙しく、開催できませんでした。令和2年度は是非とも開催したいと思います。

今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

新春のご挨拶

愛媛県支部長

井関亮甫（学23期）

仁泉会の皆様あけましておめでとうございます。今年は子年。我々医者は労働者なのでネズミの如く、この一年間頑張って働きましょう。昨年十月二十六日（土）ANAクラウンプラザホテル松山にて仁泉会愛媛県支部総会を開催致しました。参加者は七名。次の諸先生方です。【第十五期】横山 阪 【第十八期】長井 新一郎【第二十三期】井関 亮甫【第二十八期】佐藤 晴瑞【第三十一期】本田 光俊【第四十四期】細田 欣也・佐々木 淳子（写真参照）大阪薬科大学との統合のこと、今年の卒業生には本県出身者がいなかったことなど話題を提供し約二時間楽しく過ごしました。令和二年は話題提供者を招待しようという話が決まりましたのでよろしくお願ひします。皆さん、医者は体が資本です。健康にだけは充分に気をつけて下さい。



新年のご挨拶

第19期評議員

稻森耕平（学19期）

令和2年の年頭にあたりお祝辞を申し上げます。仁泉会の皆様にはすがすがしい新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

謹んで新年のお祝いを申し上げます。

私共、昭和45年卒業生は卒業後50年の歳月を経ました。この間に同級生はじめ先輩、後輩で逝去された先生がいらっしゃいます。まことに寂しいことです。ご家族の皆様には深甚な哀悼の意を表し、心からのご冥福をお祈り申し上げます。

ここで、1960年代の医学生の頃を振り返りますと、全国各地での大学紛争の盛んな頃であり慌ただしい時代でした。本学も紛争に巻き込まれ、大学の玄関前、図書館前には多くの立て看板が並び、デモ行進などもあり一時騒然とした時期がありました。その中で、一般の学生は勉学に、クラブ活動にと有意義な青春時代を過ごしたものでした。そこでは先輩、後輩の幅広い交友関係ができました。まさに仁泉会魂の誕生といえます。小生は現在も陸上競技部学生の皆様、卒業された方々との交流を続けて、新入生歓迎会、卒業生追い出し会などに参加して、西医体、クラブ活動の状況を見守っています。

さて、最近の医療界では超高齢化社会の現状に対する対策が打ち出されています。

厚生労働省は2018年10月に2040年を展望した社会保障働き方改革本部の検討課題として、誰もが、長く元気に活躍できる社会の実現を目指すとして、現役世代の人口の急減という新たな局面に対応した多様な就労、社会参加、健康寿命の延伸、医療福祉サービスの改革をあげています。健康寿命とは健康状態で生活することが期待される平均期間を表す指標であるとされ、健康状態はいかがですかという質問に対

する、よい、まあよい、ふつうという回答を健康として、あまりよくない、よくないという回答を不健康としてサリバン法により算出しています。

さらに、疾病予防、重症化予防、介護予防、フレイル対策、認知症予防などで健康寿命を2040年までに男女とも3年以上延伸（2016年比）、75歳以上を目指すとしているのが現状であります。平均寿命と健康寿命の差は、日常生活に制限のある「不健康な期間」を意味して、平均寿命と健康寿命は男性79.55歳と70.42歳で、その差は9.13年、女性86.30歳と73.62歳で、その差12.68あります。この差をいかに短縮するかが今後の課題となりましょう。

2019年7月の発表によると2018年の日本人の平均寿命は女性87.32歳、男性81.25歳と過去最高を更新して、2017年に比べて女性0.05歳、男性0.16歳伸びたとのことです。

ここで平均寿命の年次の変化を見てみると小生が卒業した1970年の平均寿命は女性74歳、男性68歳であり、2018年と比較すると女性、男性ともに10歳以上も伸びた計算になります。生活環境の向上もさることながら医療の進歩がめざましいことを示しています。

ここで別の視点から高齢者の疼痛について考えてみると、超高齢者が増加するに連れて医療現場ではさまざまな変化が起きていることがわかります。急性疼痛、慢性疼痛、がん性疼痛の制御については各科、各部門からなる集学的チーム医療が重要になりました。痛みの強さは、刺激に対して常に比例するのではなく、主観的、個人的なものであり、過去の経験、疼痛にたいする注意や、患者の状態によって影響されます。すなわち、状況に応じて感じ方が変化するのです。一般的に疼痛患者は精神的、社会的、靈的な要因が複雑にからみあって全人的痛みを表現しているといえます。

今後、この全人的痛みが存在することを念頭に置いて超高齢化社会の患者のために地域医療

に貢献したいと存じます。

最後に、皆様のご健康とご多幸をお祈りして、益々のご活躍を祈念しております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

年始所感

第39期評議員 和辻利和（学39期）

あけまして、おめでとうございます。

私は現在、市立ひらかた病院で泌尿器科の主任部長を務めています。1990年（平成2年）3月に本学を卒業し30年が経とうとしています。令和元年も瞬く間に過ぎ去りました。思い返すと、泌尿器科学教室に入局した当時の教授は、宮崎 重先生でした。毎週金曜日の教授回診、医局会が行われていた見晴らしのいい56病棟は、昨年10月に取り壊され瓦礫と化し、新病棟が建設中です。直接教えを受けた先輩の先生方で、教室に残っておられるのは、教授の東先生のみとなってしまいました。

私が大学病院で勤務していた1990年代は、昼食の時間帯に、大学周囲のお店で食事をすることがよくありました。高槻センター街の多津屋さんでは、炊きたての白いごはんに、たくあんが付いた、ダブルカレーをよく食べました。店をきりもりする、ホール係のおばちゃんも、私が行くようになってから三代目になっています。今でも時々、妻と一緒に食べに行きますが、30年が経過しても、昔の味は変わっていません。

もう一軒、大学病院から出て5、6分の裏通りに、白い壁と緑の窓枠が映える「ミカサ」と言うハンバーグランチなどを出す洋食レストランがありました。昼時にお店に入ると、眼鏡をかけたマスターの鍋を振る音が、いつも小気味良く響いていました。決まって食べるのは「カ

ツ入り大盛り」。大盛りの焼きめしに、薄いカツが7、8切れ乗って、特製ソースのかかった逸品。しかし、最近、そのレストランの前を通過すると、表のドアが取り扱われ、中は、がらんとした小規模な駐輪場となっていました。寂しい気持ちになり、店の天井の方を見上げると、太い木製の梁が数本見えます。一瞬、先輩の先生と一緒に昼食を食べていた光景がフラッシュバックして、「カツ入り大盛り」を食べたくなりました。

ミカサや 多津屋さんには、そこへ行けば、あの味に会えるという、ブランドイメージがあったことに気づきました。長い時間の経過にも、薄れることなく、私の記憶に染みついていました。

私のホームグラウンドであった5号館6階の56病棟はなくなってしまいました。スタッフも入れ替わり、建物も新しくなる中で、変わらない大阪医大のブランドイメージを持つことが大切ではないでしょうか。あの病院に行けば、心のこもった、安心できる医療を受けられる。患者さんや、患者さんの家族の記憶に染みつくような医療を提供する大学病院であり続けるためには、世代が変わっても、ぶれない、尊重されるべき Spirits を長く保持することが重要と考えています。「ミカサ」の天井を貫く梁のように、Spirits が、いつまでも保持され、ブランドイメージを持った大学病院であってほしい。新年にあたっての、私の希望です。



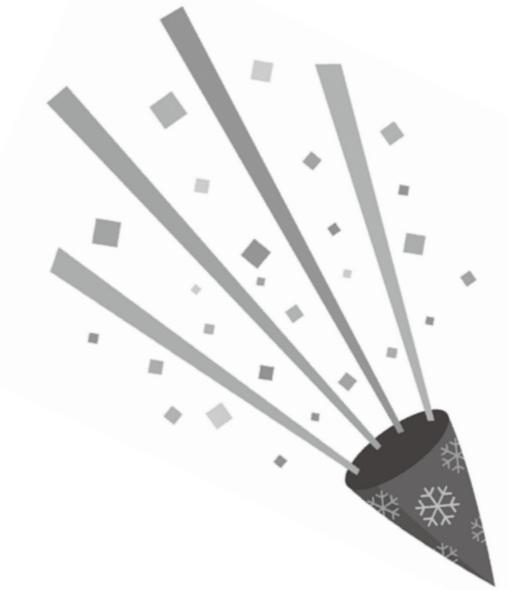
受賞報告

文責／酒井雅人（学40期）

大阪医科大学 麻酔科学教室OBの先生方が創設に関わられた「大阪府臨床麻酔科医会」が、このたび大阪府医師会の保健文化賞受賞記念大阪府医師会長賞を受賞しました。この会は、約40年の歴史を刻みおそらく日本で最初の麻酔科開業医の会です。

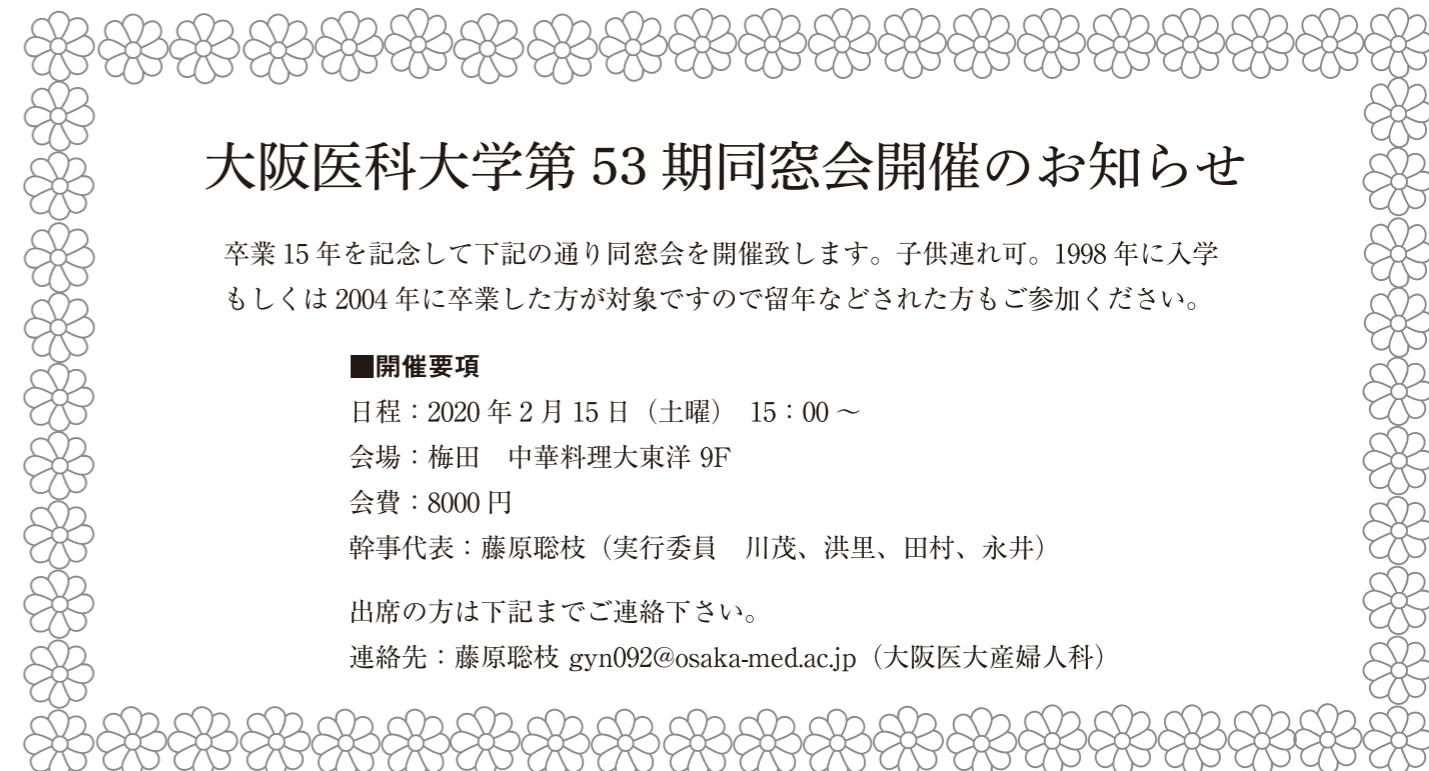
(HP : <http://osaka-masui.com/>)

設立には、本学OBの（故）大木淳司（学18期）・兵田 恒（学22期）先生が発起人となられ、その後の会長も多く本学麻酔科OBが務められました。ぜひ、仁泉会の諸先生方にもご周知頂きたく、紹介させて頂きます。これからも会の発展に何卒ご高配賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



各地で喜びの受章・受賞等あれば、事務局宛書面、新聞などをお送りください。

本誌にて広く紹介させていただきます。



大阪医科大学第53期同窓会開催のお知らせ

卒業15年を記念して下記の通り同窓会を開催致します。子供連れ可。1998年に入学もしくは2004年に卒業した方が対象ですので留年などされた方もご参加ください。

■開催要項

日程：2020年2月15日（土曜）15:00～

会場：梅田 中華料理大東洋 9F

会費：8000円

幹事代表：藤原聰枝（実行委員 川茂、洪里、田村、永井）

出席の方は下記までご連絡下さい。

連絡先：藤原聰枝 gyn092@osaka-med.ac.jp（大阪医大産婦人科）

支部だより●●●

仁泉会石川支部懇親会報告

文責／喜多 徹（学24期）

2019年12月8日、金沢市兼六園に近い、旧石川県庁舎にある、仏料理レストラン「ジャルダンポール・ボキューズ」にて、仁泉会石川支部懇親会を開催しました。

石川県は、元々本学出身者は少なく、同窓会も長く開かれませんでした。2016年11月、仁泉会本部より当時の河野理事長などを金沢に迎え、北陸地区（新潟、富山、石川、福井）懇談会が開催され、新潟を除く三県より10名の参加がありました。それからはや3年が経ちました。懇談会後、藤田邦彦先生（8期）より、不肖私に支部長を仰せつかいました。その後支部長らしい仕事は何もせず時間だけが過ぎていきました。懇談会の席で支部会の再構築を皆様で誓い合いしたこともあり、このままではまた支部も休眠状態となると恐れ、藤田先生、木村寛伸先生（34期）などと相談し、今回の石川支部懇親会開催の運びとなりました。



- 26 -

今回、仁泉会事務局より送付頂いた石川県在住会員名簿などを元に、対象会員約二十数名宛てに案内状を送付、未回答の先生方には直接電話などして参加をお願いしましたが、なんとか4名の参加となりました。

少数の参加ではありましたが、仏料理に舌づみを打ちながら和気あいあい楽しい一時を過ごしました。藤田先生は小生が学部学生の頃、当時の第一内科講師で内分泌の講義を受けたことを記憶しています。その後金沢に帰省し現在まで内科を開業されています。開業生活の間、金沢市医師会会长を務められ、全国的にも高く評価され、日本医師会功労賞も受賞した住民検診（金沢市すこやか検診）の基盤を作ったり、大きな功績を挙げておられます。木村先生は、卒業後地元金沢大学の外科学教室に入局され、その後勤務医生活をされていましたが、3年前開業され、外来診療、在宅訪問診療などで充実した開業医生活を送っておられます。高澤先生（37期）は卒業後母校の整形外科学教室に入局されました。加賀市大聖寺で開業され、診療に地元医師会理事として多忙な生活をされているようです。小生と言えば父の後を継ぎ内科を開業しましたが、あっと言う間の三十数年でした。他の三名の先生方に比べれば恥ずかしい実

績ですが、大先輩の藤田先生の元気なお姿など拝見し、もう一頑張りせねばと思ったしだいでです。

さて集まった四名の卒業年次が違い、在学時の環境も大きく違います。小生が在学中は、大学紛争などの影響がまだ残っていて、教官の欠員なども多く、難しい時期だったと思います。校舎も古く、プレハブの職員食堂に隣接した、木造の階段教室で講義を受けた経験があります。臨床講義室もあまりにお粗末で患者を連れてこられない、臨床講義を受けていました。しかし後輩にあたる木村先生、高澤先生はそんな経験はなく、ちゃんとした講義棟で授業を受けられたようです。それでも母校はもとより高槻市の変貌はすごいようですが、地方の我々は、母校、高槻市を訪れる事もなく仁泉会ニュースなどで一端を知るのみです。私なども大阪に用がある時、特急サンダーバードの車窓より一瞬、高層化した母校の校舎、JR高槻市駅の変貌を見るのみです。それでも「高槻市のセンター街」はまだあるのかとか、学生時代によく食べにいったセンター街のカツ丼屋はどうなったとか、話が盛り上りました。

今後のことですが、全体の会員数が少なくこの様な懇親会を計画しても多くの参加は望めないだろうが、たとえ少数でも、二三年おきぐらいに開催しようと意見が一致しました。共通の思いとして、最近の母校の変貌ぶりをぜひ直接聞きたい。仁泉会から理事とか現役の教官などお招きしてお話しとか聞ければよいが、なにしろ少人数しか参加が見込めないので難しい、今後の課題と言うことで散会しました。

参加者：

藤田邦彦（学8期） 喜多 徹（学24期）
木村寛伸（学34期） 高澤 実（学37期）



ご投稿のお願い

会員相互および母校とのコミュニケーションや情報交換の場として「仁泉会ニュース」を引き続き利用していただきたいと思っています。会員の先生方より本誌に対する忌憚のないご意見をいただき、同窓会の活動をさらに充実させていきたいと考えています。

下記の要領にて、多くの会員皆様からの投稿をお願いします。

- 支部会、クラス会、趣味の集会などの案内や報告
- 「仁泉ひろば」のコーナー
- 研究論文の要約（以前に他誌に投稿された内容でも結構です）
- 随想、紀行、写真、絵画、俳句、短歌、川柳などの趣味や特技
- 紹介したい店、場所、物など
- 本誌に取り上げて欲しい話題
字数には制限は設けません。葉書1枚、便箋1枚でも結構です。
- 広告について

会員自身が出される広告は現在100字程度までは無料です。内容は、人材募集、開業場所の紹介、医院承継、ブライダル、趣味の発表会の案内などです。詳細については事務局までお問い合わせ下さい。

（内容により有料の場合があります）

支部だより●●●

仁泉会高槻支部会ゴルフコンペ報告

文責／白石将史（学50期）

令和元年10月6日、ベニーカントリー倶楽部にて第1回仁泉会高槻支部長杯ゴルフコンペを開催致しました。高槻支部は昨年6月、支部長が櫟原茂之先生から保田浩先生に代わりました。支部会員の今後一層の懇親を深める目的で、今回初めてのゴルフコンペの開催となりました。

爽やかな秋晴れの中でのゴルフコンペとなりました。総勢20名の参加で、会員同士の親睦も深められ、コンペは盛況裡に行われました。優勝は特別会員の村上詩郎先生（Gross81、NET73.8）、第2位は櫟原茂之先生（Gross86、NET75.2）、第3位は本郷仁志先生（Gross91、NET75.4）でした。また、最高齢（83歳）の丸山俊郎先生も楽しくラウンドされました。

次年度以降も継続して開催して参りたいと考えております。会員各位の皆様、今後も奮って



ご参加頂けますと幸いです。宜しく御願い致します。

参加者（敬称略）

丸山俊郎（学12期） 山本哲也（学12期）
伊藤正尚（学18期） 長谷川博之（学20期）
後藤研三（学21期） 櫟原茂之（学22期）
村上詩郎（昭和49年卒） 芥川知明（学24期）
北川眞（学27期） 田中源重（学31期）
保田浩（学31期） 井上裕之（学33期）
新井基弘（学36期） 植田直樹（学36期）
陵本清剛（学36期） 本郷仁志（学38期）
鄭栄植（学42期） 峰晴昭仁（学47期）
大西恭子（平成12年卒） 白石将史（学50期）



支部だより●●●

仁泉会阿倍野支部総会と懇親会の報告

文責／福本敏子（学24期）

令和元年10月26日（土）シェラトン都ホテル大阪『明日香の間』にて、令和元年度の仁泉会阿倍野支部総会・懇親会を開催し、18名が集いました。6時から総会、6時半から懇親会を開催いたしましたが、総会は伊賀千洋先生（学29期）の司会の元、支部長（福本）挨拶の後、まず、昨年12月にご逝去されました藤本正三先生に黙祷をささげました。昨年10月の総会には、お元気に参加され大好きなオペラの話を楽しそうに話してくださいましたお姿を思いおこし、これからは阿倍野支部会員心を一つにして藤本正三先生が支えてこられた阿倍野支部を一層盛り上げていこうという思いを新たにいたしました。総会は協議事項、報告事項と順調に議事は

進行し、新しく阿倍野支部に入会された井上彰子先生（学44期）をご紹介し、阿倍野区医師会長の岡成樹先生には阿倍野区医師会報告をいただき、阿倍野支部として岡成樹先生の医師会会长活動をしっかりサポートいく事を再確認いたしました。続いて大阪鉄道病院循環器内科部長の成山仁先生（学39期）から大阪鉄道病院の現状をお話しいただきましたが、今後も大阪鉄道病院との病診連携をますます活発に行っていきたいという思いを全員共有し無事に総会は終了いたしました。

総会の議事に続き、懇親会に移りましたが、今回は仁泉会理事長の安藤嗣彦先生にご来賓としてお越しいただきました。安藤先生は大阪医科大学の現在の状況、また大阪薬科大学との統合にむけての将来の展望について詳しくお話しください「仁泉会のさらなる活性化にむけて同窓生のご協力をお願いしたい。」と、強く訴えられました。新宅敬夫先生（学23期）の乾杯のご発声の後、シェラトン都ホテル大阪ご自慢のフレンチを楽しみながら若かりし頃の思い出話を趣味の話などで、わいわいがやがやと大い

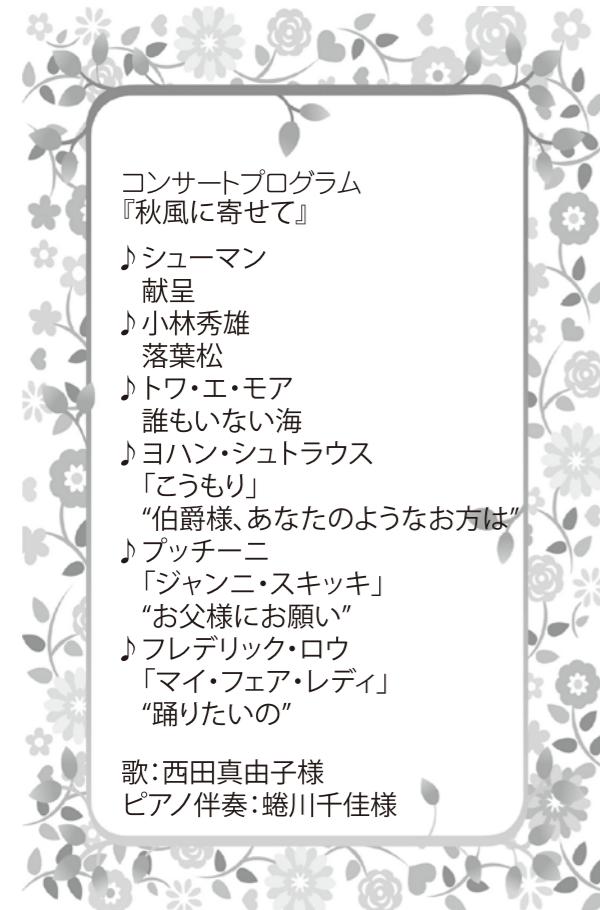


に盛り上りました。

宴もたけなわの頃、今年は同窓の二村吉継先生（学49期）の奥様の西田真由子様のソプラノを楽しませていただきました。『秋風に寄せて』というタイトルの元、普段オペラの舞台でしか聞けない素晴らしい歌声に会員一同酔いしれました。

最後に学歌を皆で齊唱し、仁泉会会員の絆を実感いたしました。

今回も同門が一同に集い、有意義な病診連携、診診連携を図ることができました。阿倍野区で開業、勤務の方以外に阿倍野区在住の同窓生も大歓迎ですので、阿倍野支部に入会希望の方は、ご連絡をお待ちしています。



参加者

- ・安藤嗣彦先生 (学20)
- ・文殊敏郎先生 (学11)
- ・新宅敬夫先生 (学23)
- ・福本敏子先生 (学24)
- ・伊賀千洋先生 (学29)
- ・横田博志先生 (学30)
- ・長田啓嗣先生 (学31)
- ・中野晋吾先生 (学34)
- ・中野久美子先生 (学34)
- ・岡 成樹先生 (学35)
- ・岡 民子先生 (学38)
- ・成山 仁先生 (学39)
- ・湊 恵美先生 (学41)
- ・井上彰子先生 (学44)
- ・西口昌樹先生 (学49)
- ・二村吉継先生 (学49)
- ・宮本裕之先生 (学51)
- ・藤阪智弘先生 (学51)

支部だより●●●

令和元年度 仁泉会大阪府連 布施・河内・枚岡および 八尾・柏原支部連合懇親会の報告

文責／辰巳昭央（学27期）

今まで両支部におきましてはそれぞれ単独で会を持ってきました。今回両支部が一同に集いより広く懇親を温め、また今後の展望についても話し合いたいと思い、初めての試みとして合同の懇親会を開催いたしました。九月二十八日、近鉄布施駅近くの料亭「若菜」に集いよもやま話に花を咲かせました。残暑も厳しいなか参加人数は9名と少なめでしたが懐かしい先生方に加え、学40期以降の若い先生も3名参加していただいたのはうれしい限りでした。大西洋一郎先生のご挨拶の折に平成元年度にご逝去された大阪府連の五名の先生方に黙祷を捧げ、佐藤公彦先生の乾杯の音頭ののち酒を酌み交わしながら、昔話や大学の今後、仁泉会の今後などについて勝手気ままに楽しく語り合いました。なかでも仁泉会の中には各県連合会、各支部組織が



あってそれに懇親の会や、研鑽の場を設けていることを会員の方々に知っていただきこの会を盛り上げていきたいとの思いは共通がありました。次回からもより多くの会員先生方のご参加をお願いします。

参加者（敬称略）

- 佐藤公彦（学12期）金城武忠（学16期）
- 塩路清一（学20期）中西一絵（学20期）
- 大西洋一郎（学25期）辰巳昭央（学27期）
- 傍島聰（学41期）長谷川昌史（学47期）
- 則岡有佳（学56期）



支部だより●●●

仁泉会河内長野支部交流会の報告

文責／櫻井幹士（学45期）

新年明けましておめでとうございます。

天皇陛下の即位をお祝いする祝賀御列の儀が執り行われおめでたいムードに包まれていた11月初めに、令和元年度仁泉会河内長野支部交流会を河内長野の老舗料亭「喜一」にて開催いたしました。

長年休会状態となっていた河内長野支部でしたが、平成28年に学22期の村田貞史先生のご発声により活動を再開し、昨秋に引き続き3回目の交流会を開催となりました。

まず初めに本年より支部長をしていただいている学44期の追矢秀人先生に開会のご挨拶をいただきました。

そして大阪南医療センター産婦人科部長の学

44期、金村昌徳先生に「卵巣癌治療 最近の話題」と題してご講演をいただきました。平素なかなか触れることのない領域の最新の知見にみな興味津々でした。

今回ご参加いただいたのは、村田貞史先生、学26期の濱田宏先生、学44期の田中啓子先生、金村昌徳先生、追矢秀人先生、学47期の江富朋彦先生、そして私、学45期の櫻井幹士の計7名での会となりました。

数年前にミシュランガイドの星を受けたことのある美味しい食事を頂きながら、大学時代の懐かしい話題で盛り上がり、楽しく意見交換が行われました。

本学から離れた田舎町ですがこれからも力を合わせて地域医療に貢献してまいりたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



支部だより●●●

令和元年度仁泉会和歌山県支部総会のご報告

文責／湯川裕史（学29期）

暦の上では立冬を過ぎて朝晩の冷えを感じる頃、晴天に恵まれた11/9（土）に、令和元年度の仁泉会和歌山県支部総会が開催されました。場所はこの数年来続いているアバローム紀の国（和歌山市）で、総勢21名の先生方の参加を頂きました。

本年度の総会は、特別講演の講師として兵庫医大特別招聘教授の松山知弘先生（学27期）をお招きするとともに、大阪薬大との合併を記念して大阪薬大同窓会和歌山県支部「紀薬会」から田中康弘支部長、坂東源司副支部長をお招



前列左から（敬称略）

湯川裕史（学29期） 坂東源司（紀薬会） 田中康弘（紀薬会） 古田浩太郎（学14期） 松山知弘（学27期）
田伏俊作（学20期）

中列左から

村上浩一（学32期） 吉田隆昭（学36期） 柳川百世（学31期） 津田祐子（学50期） 米満賛（学21期）
橋本忠明（学25期） 松谷良清（学32期） 向井龍一郎（学27期）

後列左から

塙崎憲（学42期） 柳川泰彦（学28期） 藤田定則（学38期） 平松政高（学55期） 丸山晋右（学41期）
木下博之（学41期） 藤田洋一（学52期）

きしての記念の会となりました。

まず田伏俊作支部長（学20期）から、医薬合併の話題と本年度の仁泉会総会に出席頂いた折の話を報告され、和歌山県支部の話題としては、大阪薬大和歌山県支部との交流（7/6役員交流、7/21紀薬会参加など）と、湯川裕史（学29期）の救急医療功労者和歌山県知事表彰受賞の報告を頂き、松山先生への謝辞を述べられました。

総会議事は、湯川の議長進行で、まず会計担当の塙崎憲先生（学42期）からの会計報告を、向井龍一郎先生（学27期）から会計監査の報告を頂き、出席会員の拍手で承認されました。次に庶務担当の村上浩一先生（学32期）から報告がありました。現在の会員数などの庶務報告の中で、岸上清先生（15期）からの仁泉会案内辞退のあったことを報告されました。続いて新入会の平松政高先生（学55期）、総会初参加の津田祐子先生（学50期）が紹介され、そ

それぞれの先生に自己紹介をして頂きました。次回の支部総会開催日は来年の11月第2土曜日としましたが、例年課題となっております、総会特別講師の件、会員の新入会と総会参加の勧誘の件についても言わされました。

引き続き今回参加して頂きました紀薬会のお二人からのご挨拶では、この度の本学の合併により和歌山県支部も合同で何かをやっていこうとのお言葉を頂きました。

その他フロアから意見のない事を確認して総会を終えました。

本年度の特別講演は、兵庫医大から松山名誉教授をお招きして、「脳卒中の再生療法」のタイトルでお話をうかがいました。座長は松山先生と同期の向井先生です。ノーベル賞にも匹敵すると言われているほどなかなか難しい内容です。所々メモしつつ頭に入った内容を並べると(間違っているようならすみません)、障害された脳神経組織の中にiSC細胞が生き残って脳神経を修復再生する。血管周囲の細胞が神経細胞などに変化出来る「多能性」を獲得したのがiSC細胞である。まず血管再生から脳神経再生へ。そのきっかけは「カナリア」で、生まれた直後は鳴かないのに母親の鳴くのを聞いてると鳴くようになる。そこにはまず血管新生から組織再生へのカギがあるのではないかと考えた、と述べられました。この新たな再生治療法がますます世界に発信していかれることを願い、期待しております。

翌日松山先生は、向井先生の案内で和歌浦などの和歌山観光をされたようです。

部屋を移しての写真撮影は、支部長、副支部長、松山先生、紀薬会の方、前支部長の古田浩

支部会・クラス会開催にあたって

支部会・クラス会開催にあたり、ご案内発送や出欠の集計等を仁泉会事務局にてお手伝いさせていただきます。お気軽にご相談ください。

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
e-mail / jimu@jinsenkai.net

太郎先生(学14期)を前列に、皆リラックスした笑顔で撮れたかと思います。(写真)

懇親会は、今回は残念ながら中田勝次教授(17期)が欠席されましたが、柳川康彦先生(学28期)が体調不良にもかかわらず車いでの出席を頂き、中田教授欠席の寂しさを補って余りあるほどの盛り上がりでした。皆さんアルコールを十分堪能された頃に順次自己紹介を頂きましたが、特にテーマなしのフリートークで、それぞれの仕事の現状、家族、趣味、体調などに集約される内容でした。笑い、冷やかし、驚き、慰め、ねぎらい等々の言葉が飛び交う盛会となりました。ただ、如何せん毎年この会に参加している同じ顔ぶれの「年寄り」の話ばかりですから、ここで若い人ならもっと想像もつかないような突拍子もない話題になるかなと、若い人の参加を改めて願いました。

田伏先生の音頭で学歌齊唱し、閉会となりました。紀薬会の先生からは、「気品と哀愁に満ちた素敵な校歌」との感想いただきました。

今回は二次会の準備は無く(申し訳ありません)、先生方それぞれ三々五々夜の帳に消えていかれました。

総会に出席して頂いています先生方は顔なじみが多く、楽しく親しく忌憚のない会話でますます親睦を深めていっていますが、先ほども書きましたが、ここにもう少し年齢的にも若い先生がもう少し多く参加して頂いて新しい風が吹いてくれれば、この会も益々盛り上がるでしょう。今回は津田先生、平松先生と新たに参加いただきましたが、次回以降もニューフェイスの来られることを期待して筆をおきます。

クラス会だより

47同窓会開催報告

文責／後藤研三(学21期)

令和元年11月2日(土)～3日(日)、1泊2日の日程で有馬グランドホテルで47同窓会を開催いたしました。急な案内にもかかわらず、26名の会員と夫人2名総勢28名が集いました。

11月2日午後に、各地から参集し、温泉に入ったのち、17時30分に宴会場・グランバンケット森羅に集合しました。

幹事の内田英一君、後藤研三から挨拶があり、まず、これまでに亡くなられた14名の旧友のご冥福を祈り黙祷をささげました。

その後、幹事から同窓会がしばらく開催されなかったお詫びと今回の開催に至った経緯について説明がありました。そしてこれから会の在り方について全員で話し合った結果、①会は以前のように毎年開催する。②場所は皆の集まりやすい大阪か京都で行う。③幹事は、林豊行君、内田英一君、古林光一君、後藤研三、女性連絡役として藤井留美さんとする。④来年は10

月3日(土曜日)とする。⑤場所については幹事に一任することを決定いたしました。

参加者全員での記念撮影ののち、懇親会に移りました。

懇親会は、内田英一君の司会のもと、開宴の挨拶を長い間47同窓会事務局を担当してくれている友紳会病院の林豊行君から、乾杯の挨拶は広島から駆け付けてくれた藤井俊宏君が行いました。宴会が始まり各自の近況報告がありましたが、あたかも病歴報告会のようになり、皆歳を重ねていろんな病と共生しながら過ごしていることがうかがわれました。二次会は別室のカラオケルームに移動し、深夜まで旧交を温めることができました。

翌日は、朝食ののち、1年後の再開を祈念しながら漸次解散となりました。

参加者(敬称略)

青山文代、伊藤千代子、上原春男、内田英一、岡野准夫妻、神吉秀一、小西慎吾、後藤研三、阪口昌子、芝山明子、清水修、高松順太、陳京生、土居義典、中島督夫、浜口卓也、林豊行、藤井俊宏、藤井恒二・留美夫妻、古林光一、古屋紳子、松浦尊麿、山田雅人夫妻、米田博之



クラス会だより

学23期（昭和49年卒）同窓会 「生涯初めての同窓会参加の友人」

文責／近藤敬一郎（学23期）

ラグビーワールドカップ2019の決勝は、南アフリカがイングランドに32対12で大勝し、日本国内がホッとした翌週11月9日（土）に、学23期生（昭和49年卒）卒後45周年記念同窓会が、大阪駅北グランフロント内にあるインターコンチネンタルホテル大阪で開催されました。仁泉会事務局のご協力で75名の方々に同窓会開催案内を郵送し、出席32名、欠席27名の返信を受けました。元学長の竹中洋君は、英語検定の問題で忙しく、出席出来ませんでした。河合君は出席の返信がありましたが、残念ながら直前になり、体調不良の電話がありました。岩越さんは仕事で遅れたため、写真撮影には間に合いませんでした。

当日は気候も良く、アクセスの便利さもあつ

て開催予定の18時には、殆どの同級生が集ってくれました。先ず、全員の集合写真を撮ることで会は始まり、続いてCDラジカセに合わせて学歌を齊唱しました。この5年間には同級生が亡くなったとの報告はないと思っていたのですが、石井君が今年1月に、三宅君が6月に亡くなられておられ、お二人の物故者へ黙祷で哀悼の意を捧げました。

今回の同窓会は卒後45年も経っているので、お呼びできる恩師も心当たりが無く、悩んでいたのですが、遠く高知に北野先生がおられる事を思い出し、早速電話でクラス会参加を呼びかけました。当初はお忙しいことと、健康のことなどで悩んでおられる様子でしたが、しつこい私の勧誘と、頻回に出した仁泉会ニュースの案内に北野さんの名前を入れたことで、重い腰を挙げて下さいました。前々から北野さんが参加されるのなら是非にも会いたいと仰る同級生も少なくありませんでしたので、今回は北野さんに寄せパンダになって頂きました。

代表挨拶は、法人理事である假野君が大学の近況や今抱える問題など、具体的に分かり易く



後列左から) 近藤、稻田、山本、河村、西本、中田、樋崎、寺師、花本、竹中
中列左から) 奥西、樋、假野、中島、梶野、奥谷、宮本、森、明石、安井

前列左から) 岡村夫人、櫻本、井関、岡村、益永、北野、吉田、諏訪、田代、松本、井上、中山 (敬称略)

説明して下さり、次いでホテルお勧めのシャンパンで乾杯し宴が始まりました。しばらく歓談の後、最初は北野さんに近況報告をして頂きました。彼は、生い立ちから同級生となった経緯など、想像を絶するご苦労を経て今に至る人生を滔々とお話しされ、皆、食べることも忘れて聞き入っていました。そのお話の中で「私は今日、生涯初めて同窓会というのに参加しました」と仰っておられました。戦後の混乱期を含め、過去に同窓生と言うべき友と長く一緒に生活したことがなかったからとのことでした。私は、そのことだけでも今回、彼に参加して頂いてよかったですと思わず居られませんでした。

食事は大変おいしかったのですが、古稀を超

えた老人たちには少しボリュームが多かった様でした。順次近況挨拶が続きましたが、梶野君と森君は休業したとの報告でした。クラス代表（仁泉会評議員）が竹中洋君から梶野興三君に変更になった事を報告し、最後に梶野君に中締めをして頂きました。二次会は同ホテル20階のラウンジへ半数の人たちが移動し、さらに旧交をあたためなおすべておられた後、散会となりました。

翌日、49杯ゴルフコンペが、假野君、中田君のお世話をにより、西宮カントリークラブにおいて開催されました。3組の参加でしたが、気候も良く楽しい一日でした。優勝は会員である假野夫人でした。

あの日読めた本をもう一度

昔、一度この話を読もうとして挫折したことがある。難しい表現が続くこの話を無理して読み進めてはみたものの、結局短編であるにもかかわらず途中で折れてしまって、えいやと投げ捨ててしまった。

もしかするとその時の後悔が胸の奥で燐っていたのかもしれない。たまたま本屋で見かけて購入した私は、スマートフォンという百科事典を手にもう一度「外科室」と向き合った。

読んでみてわかったことだが、この小説の表現の目を見張る点は言葉への恋情の滲ませ方の巧妙さだ。とりわけ、夫人の発した「あなたは私を知りますまい！」という言葉に対する高峰の「知っています」という返答のなんとも言えない耽美さにはうっとりするほかない。最後が筆者の問い合わせられる形式も、なんとも余韻深く色気がある。

正直、あの日読めずに投げ出したことを後悔した。難しいと思えた言葉遣いすらも、今となっては物語に深みを添えているように思えるから不思議だ。

さあ今これを読んでいるあなたに問おう、あの日読めた本をもう一度読む気になったか。

医学部3回生 文芸部 井内 燕

外科室・海城発電

他五篇

泉 鏡花作

一度目をかわしただけで
恋におちた学生と少女が、
歳月をへだてて、それぞ
れ外科医師と患者の貴婦
人として手術室の中で再
会し、愛に寄せる——鏡
花文学の原點をもつとも
よく示すこの「外科室」
をはじめとする初期の代
表作集。他に「義理侠血」
〔『港の白糸』の原作〕「狂想曲」「花嫁衣」
「凱旋祭」を収録。(解説・川村二郎)

録 27-12
岩波文庫

外科室

著者／泉 鏡花

クラス会だより

学部26期同期会報告

文責／行村 純（学26期）

令和元年10月26日ホテルグランヴィア大阪にて同期会を開催しました。出席者は32名。卒業して42年幾多の試練を乗り越えて再会した喜びで乾杯しました。その後一人一人がマイクを手にして近況、趣味についてそしてこれからの生き様などを熱く語りました。

宴半ば、惜しくも亡くなられた石川正樹君のご冥福を祈って黙祷を捧げました。

次回は令和3年10月23日（土）、水谷 均、松本恒司両君の幹事で京都にて開催と決まりました。

幹事：西 律、山本祐三、行村 純



出席者

石丸徹郎、植田直樹、枝重恭一（奥様ご同伴）
改井 修、粕谷正史、片岡晃哉、北畠義久
木戸友幸、木村 道、黒川義澄
駒越春樹（奥様ご同伴）、斎藤隆晴、篠田恵一
島田 徹、巽 孝彦、中島正之、西 律、西村 光
長谷川真知子、畠田率達、濱田 宏、真下伸一
松本延男、松本恒司、水谷 均、宮地芳樹
山本祐三、行村 純、弓場通正



クラス会だより

学43期同窓会

文責／黒川晃夫（学43期）

2019年7月6日。雲の間から時折日が差す、まことに天候であった。その日は16年振りの同窓会。ホテルグランヴィア京都へ向かう私の心の中には、青みがかった靄（もや）が立ち込めていた。17時、一次会会場、古今の間に到着した。ずっと一緒に幹事をしてくれた藤田君が一足先に来ていた。彼と再会の喜びを分かち、楽しい会で終わったらいいな、など言葉を交わしていた。そういううちに、中川君が現れ、一人、また一人懐かしい面々が会場に姿をみせた。早速、自ら受付を手伝うと名乗り出てくれた藤田君、中川君、加地（旧姓静）さんとともに、会費集めにとりかかった。彼らの協力のお陰で、受付はスムーズに進んだ。

18時過ぎ、会に先立ち、集合写真撮影が行われ、5年前この世を去った故阪本（旧姓板倉）

久恵さんへの黙祷を捧げた。ホテル担当者にてテーブルにスパークリングワインが並べられ、私の拙い乾杯の発声で宴の幕が上がった。会場のあちこちで、近況報告や昔の懐かしい思い出話に花が咲いていた。徐々に皆のテンションが高まっていく中、出席者全員のスピーチが始まった。同士の活躍ぶりや面白いおかしいトークに、宴席からどよめきや笑いの声が絶えなかつた。続いて、アルバム委員であった森本（旧姓高梨）さん、宮保（旧姓嶋）さん、西岡さん、野村君によって、アルバムの現状報告がなされた。再び和やかな歓談が始まり、最後に、桑島さんの中締めの挨拶で一次会は幕を閉じた。

二次会は、ホテルグランヴィア京都15階のスカイダイニング＆ラウンジ サザンコート。京都の間に、薄紫、赤、白、青に彩られた京都タワーがくっきり浮かんで見える、実に展望のよい場所であった。和気藹々とした団欒の時間はあっという間に過ぎ、無事、二次会は終了した。

16年振りの同窓会。参加者は50人を上回る、盛大なものとなった。それは、学43期全員で作



一次会 古今の間

られた賜物であることは言うまでもない。今回出席した方は勿論のこと、残念ながら出席できなかった皆さんも、次回の同窓会には可能な限り出席し、よりよい学43期同窓会を盛り立てていこう！



一次会。左から、野村、三重野、西尾、藤田、白川
増田（清博）、湯田、北野、中川



桑島さんによる中締めの挨拶



アルバム委員。左から森本（高梨）、宮保（嶋）
西岡、野村

出席者

池田（栗政）浩子、池永透、伊藤（谷）大
井上俊宏、井上仁、植田佳秀、岡崎（松田）紀
岡部太一、小崎裕司、尾崎誠重、尾原幹啓、
加地（静）美千子、川端信司、川部伸一郎
北野勝也、北原民雄、木下秀一郎、桐山邦徳
黒川晃夫、桑島靖子、小林稔弘、坂井昌弘
佐々木（小林）みのり、篠原孝明、白川重雄（白雲重）
新関亮、鈴木厚、竹安一郎、田中（篠本）陽子
年名（林）優美、中川義仁、中山紳、永田正喜
西尾公利、西岡恵里、野村幸哉、藤田佳史
細井慶太、穂積（中村）知美、坊岡進一、増田清博
三重野繁敏、三根大乘、箕田（宮本）朋子
宮崎（本多）貞恵、宮田（新原）香織、宮田正年
宮保（嶋）浩子、森本（高梨）万美、山北哲也
湯田淳（敬称略）



二次会。スカイダイニング＆ラウンジ サザンコート



仁泉ひろば

jinsen-park

ラグビー部の思いで

文責／高矢康幸（学26期）

2019年、9月から10月にかけて、ラグビーワールドカップが日本で開催されていました。

私は、神戸で4試合、横浜で準決勝の2試合を観戦しました。いずれの試合にも感動しました。この機会にラグビー部での6年間の経験を懐かしく振り返ってみます。

昭和46年に入学を許可されました。沢良木町の教養部講堂におけるクラブ紹介で勧誘されたのが入部のきっかけになりました。中学、高校と野球、サッカーを、すこしかじった程度で、本格的な部活はしていません。ラグビーの知識も皆無でした。私の学年は4人入部しました。ルールは知りません。先輩から指導されたのは、ボールを前に落とすな、ボールを前に投げるな、ボールを持ったら、まっすぐ前に走れの3点でした。もちろんオフサイド、モール、ラックとかは何の事か分かりません。

入部して最初の1カ月間は、練習もゆるく、なんとかついていくことができましたが、夏場が近づくと暑さと練習量の増加で、しんどくなっていました。おまけに夏合宿は、非常に過酷との評判があり、これはえらいことになった、何とか逃げる方法を考えましたが、グッドアイデアなし。このような時に、合宿を耐えることができたら、以後の人生で、どのような逆境に遭っても乗り越えることができるぞとの先輩の一言で、合宿に参加しました。確かにしんどかった。特に5日目の練習量ピークのときは、ついていけませんでした。しかし、先輩達の温かい見守りのおかげで何とか乗り切りました。

西医体も終り、秋風が吹く頃になると、今まで、いやだなあと思ってやっていたのですが、樽円球を追いかけるおもしろさ、体と体をぶつけあった後の爽やかさ、すこしづつ好きになりました。このようにして、6年間の充実した学

生生活を送ることができました。

6年間のエピソードを列挙します。（順不同）

- 合宿が終って、自宅に帰り、傷だらけの顔を見て、驚く両親の顔。
- 入部して不安に、おののいていた私に、やさしく声をかけて下さった浅野女史。
- 練習中に脱水症で倒れ、先輩方に御迷惑をかけた事。
- 金沢での西医体で3トライした事。
- サッカー部、野球部とのグラウンドの争奪戦。
- 関西医大との合同合宿。

仁泉会ニュースにて、中倉先輩の計報を目にしました。

中倉さんは私の2年先輩で、あだ名は鉄腕アトム（宮本君命名）。スクランブルを教えていただきました。先輩の髪が私の顔にあたる感触、頭と肩が私の胸を押してくる力強さが、40年経過した今でも、思い出すことができます。

御冥福をお祈りいたします。

ラグビーと学業、人生において貴重な6年間を与えてくださった、大学本部、ラグビー部部長、私のツーさんこと塚本教授、木原教授、諸先輩方、片岡、浜畑、篠田、後輩諸君に感謝します。

最後になりましたが、大阪医科大学、仁泉会の益々の御発展をお祈りいたします。

令和元年11月26日



仁泉ひろば

jinsen-park

2019（令和元）年度大阪医科大学ヨット部OB総会

文責／石崎英介（学45期）

2019（令和元）年度ヨット部OB総会が、令和元年9月7日土曜日に開催されました。

OB総会の会場ですが、不定期に行われていた時代には琵琶湖畔で宴会の後一泊、翌日にはOBの希望者がヨットに乗ったりしていました。しかし総会が毎年の開催となって以降は交通の便の問題もあってこの数年大阪市内のホテルで行なってきました。

本年度は、ヨット部創設40周年の節目に当たる年になるため、それを記念して例年と異なる趣向で、また大学を離れて久しい先生方から近年の母校の変貌ぶりを見てみたいとの声もあり、本学キャンパス内にて開催することとなりました。

まずOB総会を本学新講義実習棟PA会館P301号室で行いました。総会では、前年度OB会会計の承認、今年度OB会予算の決定、また領収書の発行について、郵送物について等の議



題について忌憚のない話し合いを行うことができました。

その後、40周年特別企画として、服部元史先生（学33期）より懐かしい写真のスライドショーをご提供いただき、相馬義郎先生（学36期）にご解説いただきました。また、小溝芳美先生（学34期）からも写真を提供いただき、ヨット部創設当時の皆様の勇姿が蘇りました。

続いて記念撮影の後、会場を図書館棟地下1階の食堂に移し、部長の上田晃一先生（学33期）に乾杯のご挨拶をいただき、懇親会を行いました。一時期の現役部員の減少の危機も乗り越え、現役部員も多数参加して賑やかで楽しい懇親会を過ごすことができました。

当日参加が叶わなかったOBの皆さんには、議事録や当日の写真、また現役部員の写真等を「大阪医科大学ヨット部」ホームページに掲載していますので、ぜひ一度ご覧いただきたいと思います。



出席者（敬称略）

松本和基（学25期） 上田晃一（学33期）

島田哲志（学36期） 相馬義郎（学36期）

宗宮浩一（学37期） 杉本裕宣（学38期）

高木雄久（学39期） 江村成就（学39期）

高橋元（学44期） 宮井康次（学44期）

朝子晃憲（学45期） 石崎英介（学45期）

大前貴裕（学45期） 可児弘行（学45期）

可児佳代子（学45期） 加茂正嗣（学45期）

亀井宏治（学46期） 高橋猛（学49期）

中島祐介（学53期） 中島三和（学53期）

樋林賢（学53期） 濱口拓哉（学68期）

現役部員

奥田悟之（医学科4年生） 小原圭由（医学科4年生） 任聿輝（医学科3年生） 池田要（医学科2年生） 北村知之（医学科2年生） 佐原匡紀（医学科2年生） 荒川すみほ（看護学科2年生）

高田真帆（看護学科2年生） 塚本いづほ（看護学科2年生） 橋本あい（看護学科2年生）

平尾まこ（看護学科2年生） 福井彩乃（看護学科2年生） 宮崎由奈（看護学科2年生）

黒川達也（医学科1年生） 馬場友樹（医学科1年生） 松島綸太郎（医学科1年生） 氏本咲希（看護学科1年生） 大下春香（看護学科1年生）

大和田真央（看護学科1年生）



編集部より

写真・絵画などの作品募集のお知らせ

仁泉会ニュースの表紙を彩るお写真や絵画などの作品を募集します。季節の風景、お住まいの地域の街並みの写真、ご趣味で描かれている絵画などをお送りください。なお、掲載時期及び掲載の有無に関するお問い合わせはご一任くださいますようお願い致します。



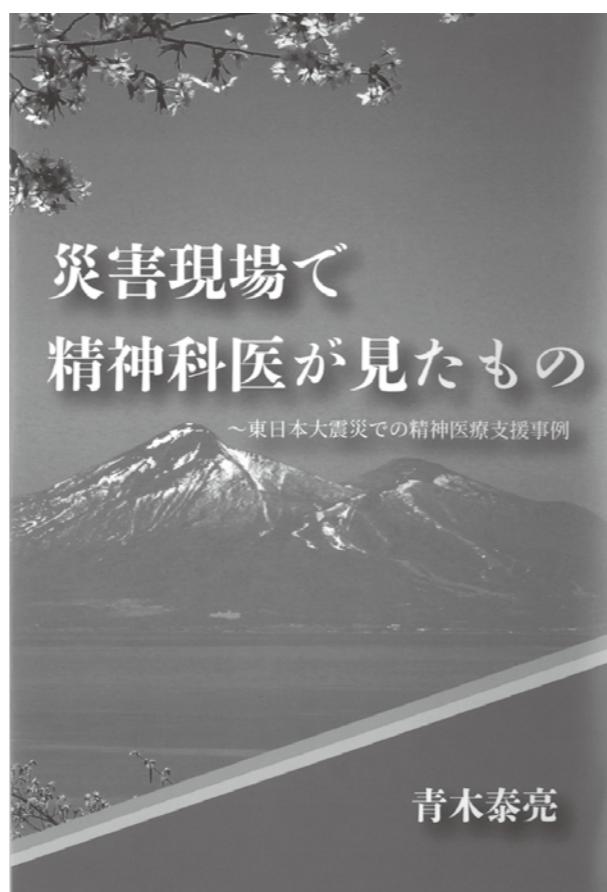
写真ご投稿 「高槻市民憲章」西村 保先生（学4期）

TOPICS

医師が選ぶ「子どもを入れたい医学部ランキング【私立編】」(Doctors LIFESTYLE-m3.com 調べ)で大阪医科大学が4位に選ばれました。

順位	大学	投票数
1	慶應義塾大学	468
2	自治医科大学	70
3	順天堂大学	56
4	大阪医科大学	51
5	東京慈恵会医科大学	43
5	産業医科大学	43
7	岩手医科大学	26
8	関西医科大学	24
9	国際医療福祉大学	22
10	福岡大学	20
11	藤田医科大学	18
11	兵庫医科大学	18
13	日本医科大学	15
13	久留米大学	15
15	東北医科薬科大学	14
16	近畿大学	13
17	愛知医科大学	12
18	東京医科大学	11
19	昭和大学	9
19	東京女子医科大学	9
19	北里大学	9
22	東邦大学	7
22	川崎医科大学	7
24	日本大学	6
25	獨協医科大学	5
25	埼玉医科大学	5
25	聖マリアンナ医科大学	5
28	帝京大学	4
28	金沢医科大学	4
30	東海大学	3
31	杏林大学	2

会員著書



災害現場で精神科医が見たもの ～東日本大震災での精神医療支援実例～

青木泰亮（学17期）／著
出版社／大垣書店

拝啓

ご無沙汰いたしております。

本書は、私が東日本大震災に際し災害派遣されましたときの思いを平成二十四年一月に書きまとめた冊子に加筆したものです。

現在は当時とは異なる対応などもあるかと思われますが、一つの記録として、改めてご一読いただければ幸いに存じます。

令和元年九月
青木泰亮 拝

記事紹介

医療維新

学長就任の最終年度、創立150周年を見据えて-竹中洋・京都府立医大学長に聞く 「与えられた境遇でベストを尽くしてきた」

インタビュー 2019年10月25日(金)配信 聞き手・まとめ：高橋直純(m3.com編集部)

2017年に前学長の問題を受けて、京都府立医大の学長に就任した竹中洋氏。大阪医科大学での学長・病院長経験を踏まえて、どのように大学改革に取り組んできたのか。任期3年の最終年にあたり、これまでの取り組みと2022年の創立150周年に向けた展望を聞いた(就任の経緯は『京都府立医大新学長に竹中・元大阪医科大学長』)。(2019年7月30日にインタビュー)

—2017年に学長に就任し、今年が最終年度となります。これまでに最も力を入れてきたことは何でしょうか。

言うまでもないことですが、教育に責任を持つということが大学の一番大きな役割です。学生は我々にとっては一番大事にしなければならない存在です。公立大学なので京都府庁から人事異動で来ている職員もいます。改めて「教職協働」を訴えましたが、教員だけでなく、職員にも、学生が成長していくプロセスに関与してほしいと呼びかけました。



竹中洋・京都府立医大学長

就任直後から学生との対話集会を開催しました。私自身は大阪医大の学長をしていた時に、ずいぶん学生とも話をしました。例えば留年した学生には自分で説明して、父兄を含む三者面談にも参加して、月に1回ぐらいはフォローアップするということをやってきました。本学に来てからも同じようにしたいと考えています。

2点目は、なんといっても本学は研究する力が強い大学です。文科省の科研費では全国で10位以内に入っていますし、教員1人当たりだと5番前後です。一方で、AMED(日本医療研究開発機構)のプログラムオフィサーとして見ると少し専門性に偏って深掘りしすぎているように感じるところもありました。

京都府の大学ということもあります。府民の健康につながるような研究、予防医学などにも力を入れるべきだと考えています。「近未来地域医療学」「地域生涯健康医学」といった新しい大学院コースも作りました。京都府の持つ医療や保健に関するビッグデータを解析して、地域医療構想などの作成にも役立てていきます。例えば、京丹後市は人口当たりの100歳以上の人口比率が全国平均の2.8倍であり、我が国最高の長寿地域ですが、なぜ可能となるのかを解明する「京丹後長寿コホート研究」を実施しており、弘前大学COI研究推進機構と組んで研究・実用化を目指しています。

ゲノム研究も進めています。調べてみると、本学だけでも、1万2000～1万3000人の京都府民のゲノムデータを持っている。それぞれの教員が自分のテーマで活用していますが、もっと京都府民の健康に役立つ研究をすることも可能なはずです。そういうものを一つのプラットフォームを作って、各教員のアリストリティ、権利は認めつつ、発展的な研究ができる場作りを進めています。

★★★2019年10月25日(金)に配信のDoctors LIFESTYLE-m3.comに
竹中 洋先生(学23期)の記事が掲載されました。★★★

——竹中先生はこれまで大阪医科大学でも学長、病院長を務められてきました。「働き方改革」など大学の課題は多いですね。

働き方改革は進めるべきですが、同時に考えないといけないのは医師や看護師のキャリアです。40歳でカテーテルをやっていた循環器内科医が、55歳を過ぎてもそれができるのか。新しい医療機器が次々出てきて、それに全て対応していける人はそんなにいないですよね。

同時に後進の育成も重要な課題です。ポストが人を作りますし、ポストに就かなければ症例を経験することもできません。どんなにできる人であっても、ある段階で、後進にポジションを譲るべきだと思います。譲ったときに、その人が生き生き働ける場所を我々が用意できているかどうか。ずっとカテーテルをやっていた医師で、50歳になってから解剖学をやりたいという人が出でても、私はいいと思います。

人口が減る中で、病院の集約化も起っていますし、ポストが減る中で医系教員のリカレント教育も考えなくてはいけません。総合診療的なスキルが求められる地域もたくさんあります。医学部にとっては、働き方改革以上に、医師のキャリアを考える天地変動の時期だと思います。その天地変動の時期にあって、教員だけでなく今、私たちが教育をしている学生が働き盛りになった時に、生き生きと働いていける環境を考えるのも我々の責任です。定年延長もされるでしょうが、若い人が適正なポストに就けるように人事の流動化も図つていかないといけません。そういう大きな命題があり、「近未来地域医療」を掲げているところです。今年から京都府の予算が付きましたので、府立医大の関連病院で急性期病院にいる医師が慢性期病院で体験することなどを予定しています。

——女性医師も増えてきています。京都府立医大が行っている「しなやか女性医学研究者支援みやこモデル」とはどういうもので、どんな課題があるのでしょうか。

2010年に文科省の女性研究者支援事業として採択されたもので、女性医学研究者採用枠の設置や病児保育を軸とする子育て支援を行います。本学の男女共同参画推進センターでも、非常に活発な活動をしており、今の30代後半から40代過ぎぐらいまでの非常に優秀で、教育熱心、研究もできるという女性教員をどんどん輩出しつつあります。

次のステップとしては、男性優位社会で伍していく人を出していかないでなく、男女関係なく、ダイバーシティ、働き方の多様性を考えいくことです。男女共同参画推進センターを今年から「ワークライフバランス支援センターみやこ」に改称したのもそうした理由からです。

病児保育も2011年度から始まっています。本学の保育は男女共同参画推進センターが女性教員支援を目的に成立したのです。学内保育は看護職や広く職員にも開放されてきたもので、病児保育についてもその趣旨が継続しています。

——今年4月には永守記念最先端がん治療研究センターが開設され、陽子線治療が始まりましたね。なぜ京都府立医大で陽子線なのでしょうか。

山田啓二前知事の時代から京都府が、がんの治療に力を入れたいという考えがあったようです。本学は手術が一番強いところなのですが、放射線治療の分野で機器や人材育成という点で後れを取っているという危機感が行政の方にあり、企画されたと理解しています。そこに永守重信日本電産会長からの寄附があり実現しました。順調に使用されているので、下半期からほぼ100パーセントの稼働率を達成すると思います。患者は京都府民が多いですね。

昨年の4月から保険収載されていますが、先進医療については大学が京都府民向けに最初から料金を設定するのではなくて、必要な診療費をいたいた上で、京都府から補助が出るようにしてもらっています。

——2022年には創立150周年を迎えます。

この機会に新しい研究手法の導入や、プラットフォーム作り、あるいは京都府との協調関係をさらに深めて「行政医」の育成など、本来の府立医科大学が持っている役割を明確にすることだと思います。

今年度、キャンパスの改修計画の調査費が予算でようやく付きました。大学病院も50年ぐらい経っていますし、まだどうなるかは分かりませんが、調査予算が付いたということは、これから本格的に考えていくものと思います。

人口減少時代を迎える京都という地の利をもっと生かすべきと思います。インバウンドによる観光客目当ての収益性の高い事業というのではなく、国際交流を積極的にやるべきだと考え、昨年はイギリス・エジンバラ大学とタイ・チュラロンコン大学、今年はフィリピンのサント・トマス大学と国際交流を締結しました。今後は主にASEANと連携すべきだと思っています。

具体的には観光、医療ツーリズムではなく、大学同士でMOU(国際交流協定)を締結した上で、例えば陽子線治療の適応のある患者さんを引き取る、そういうものに持っていくたいと思っています。

——前学長の問題が生じて突然の学長就任でした。竹中先生の学長任期は今年度までですね。

大学として非常に大きな問題でしたが、司法的な課題はほぼ1年内に解決をしました。それとは別に、襟を正すべきところは正して、新生「京都府立医科大学」とは言いませんが、良いものは残し、直すべきは直すという3年間でした。自分では与えられた境遇でベストを尽くしてきたつもりです。

新聞切抜

適切な診断・治療で子どもに笑顔を 起立性調節障害を診る

interview 田中 英高氏(OD低血圧クリニック田中院長)に聞く

田中 ODの治療には大きく薬物療法と非薬物療法があります。薬物療法では昇圧薬であるミドドリン塩酸塩などを用いますが、これは治療効果に占める割合としては一部にすぎません。ODの症状を改善するには、生活習慣改善などの非薬物療法が重要な役割を持ちます。例えば散歩などの軽度の運動、水分や塩分の摂取、起立時には頭位を前屈させてゆっくりと起き上がるなどの行動を徹底することが大切です。

——ODと疑わしき子どもが来院した際、医療者はどのように対応すべきでしょうか。

田中 OD以外の基礎疾患の可能性を除外した上で、まずは新起立試験法を実施してほしいです。これは初診の場合、検査時間も含めれば30~60分はかかる検査ですので、診るべき患者を大量に抱える多忙な医師にとってはハードルが高いかもしれません。しかし検査でODと確定し、その検査結果を子どもや保護者が知ることは、OD診療の第一歩となります。

——なぜ当事者が検査結果を知ることが必要なのですか。

田中 まず、ODは身体疾患であると保護者が真に理解するためです。保護者がODを身体疾患だと理解していない場合、どこかで怠けだと思ってつい「早く起きなさい」「学校に行かない」となどと子どもに向うるさく言ってしまうことがあります。このような誤った対応は親子関係の悪化を招きかねませんし、問題の根本的な解決にはつながりません。

——なぜ当事者が検査結果を知ることが必要なのですか。

田中 今は患者の親の会があるため、学校へ説明に行くなど保護者による働き掛けもあり、理解しサポートしてくれる学校は随分増えました。教員にはガイドラインの内容を説明し、その子どもが怠けているのではなく病気なのだと理解して適切な支援をするよう求めています。具体的には長時間の静止状態での起立や暑気を避ける、運動での登校を認める、さらにはクラスメートの理解を得る、などです。教員は多忙なため対応が難しい部分もありますが、子どもの生活を支えるための多機能連携に努めています。

——今後田中先生はODの子どもたちをどうサポートしていくですか。

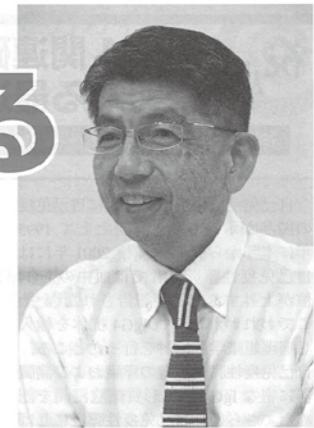
田中 私が診察する患者さんは遠方から来院する方が多くいるため、治療方針を決定した後は地元のかかりつけ医の先生方に治療を依頼します。

——保護者には子どもの疾患を理解し見守る姿勢が必要なのですね。

田中 はい。また検査結果を知ることは、子ども自身が治療に当事者の意識を持つために重要な意味を持ちます。

全国の子どもの日常生活をサポートする

田中 検査結果を伝える際、私は子どもに「この病気を治せるのは他でもないあなただよ」と話しています。先に述べたように、OD治療においては薬物療法以上に生活習慣改善が重要ですから、子どもが自動的に治療に取り組むことが最重要です。診察に来るたび検査結果を子どもと共有し、生活の中でできたことやできなかったことを一



●たなか・ひでたか氏
1980年大阪医大卒。86年同大大学院博士課程修了。博士(医学) 同小児科講師、助教授、准教授、同大病院癡小児科科長などを経て、2014年OD低血圧クリニック田中を開院。大阪医大小児科での診療経験をもとにODの診断方法を確立。「私がODの診療を始めてからガイドラインが完成するまで20年以上かかりました。それでもOD診療に取り組み続けたのは、症状が改善し、喜ぶ子どもの姿を見ることにやりがいを感じるからです」

緒に確認しながら治療に取り組んでいます。

——子どもが日中過ごす場である学校の理解は、現在どのくらい進んでいるのですか。

田中 今は患者の親の会があるため、学校へ説明に行くなど保護者による働き掛けもあり、理解しサポートしてくれる学校は随分増えました。教員にはガイドラインの内容を説明し、その子どもが怠けているのではなく病気なのだと理解して適切な支援をするよう求めています。具体的には長時間の静止状態での起立や暑気を避ける、運動での登校を認める、さらにはクラスメートの理解を得る、などです。教員は多忙なため対応が難しい部分もありますが、子どもの生活を支えるための多機能連携に努めています。

——今後田中先生はODの子どもたちをどうサポートしていくですか。

田中 私が診察する患者さんは遠方から来院する方が多くいるため、治療方針を決定した後は地元のかかりつけ医の先生方に治療を依頼します。

——保護者には子どもの疾患を理解し見守る姿勢が必要なのですね。

田中 はい。また検査結果を知ることは、子ども自身が治療に当事者の意識を持つために重要な意味を持ちます。

全国の子どもの日常生活をサポートする

田中 検査結果を伝える際、私は子どもに「この病気を治せるのは他でもないあなただよ」と話しています。先に述べたように、OD治療においては薬物療法以上に生活習慣改善が重要ですから、子どもが自動的に治療に取り組むことが最重要です。診察に来るたび検査結果を子どもと共有し、生活の中でできたことやできなかったことを一

★★★2019年9月30日付け週刊医学界新聞第3340号に田中英高先生(学29期)の記事が連載されました。★★★

冊子切抜

医師臨床研修マッチング

大学は東京医科歯科大がトップ 市中病院は2年連続で虎の門病院

医師臨床研修マッチング協議会は9月20日、医師臨床研修マッチングの中間結果を公表した。今年度、大学病院で最も多くの1位希望者を集めたのは、昨年度2位だった東京医科歯科大学(76人)。昨年度首位だった東京大学は、62人で2位となった。

医学生や既卒者は、初期研修先となる大学病院や市中病院の志望順位を付けた上でマッチングに登録する。大学病院で東京大学と並ぶ2位になった大阪医科大学は昨年度16位からのランクアップ。56人の定員に対し1位希望人数が62人で、定員以上の希望者を集めた。他に定員以上の希望者を集めた大学は関西医大(充足率113.6%)のみ。4位は、昨年度3位の京都大学と、同7位の和歌山県立医科大学(ともに51人)だった。

その他、1位希望人数順の順位を大きく上げたのは、東邦大学(66位→37位)、滋賀医科大学(62位→35位)、自治医科大学(49位→24位)など。大きく下げたのは、順天堂大学(6位→35位)、福岡大学(24位→49位)、佐賀大学(23位→45位)などだった。

市中病院の首位は、2年連続で虎の門病院(東京都港区)。2位は、昨年度13位の国立国際医療研究センター病院(東京都新宿区)、3位は昨年度20位から躍進した横浜市立市民病院(保土ヶ谷区)だった。昨年度2位の聖路加国際病院(東京都中央区)は

4位。昨年度4位の武藏野赤十字病院(東京都武藏野市)は順位を1つ下げて5位となったが、同病院は、昨年と同じ10人の募集枠に54人の1位希望者が集まり、充足率は540.0%と圧倒的に高くなっている。

★★★2019年10月10日発行日経メディカル第623号に医師臨床研修マッチングの記事が連載されました。★★★



エッセイ

歴史を彩った女性達 (20)

西村 保 (学4期)

人見絹江

岡山市生まれ(1908年)。岡山高等女学校卒業後、二階堂体操女塾(現日本女子体育大学)で学び、一時は京都府立第一高等女学校に勤務したが、後に毎日新聞社に入社した。

彼女は生来背が高く170cmであった。現在の成人女性の平均身長は158cmであり、170cmの女性は決して珍しくはないが、大正昭和初期においては飛び抜けた高身長であり、運動能力も秀れていたので1926年にスエーデンのエーテボリで開催された第2回国際女子陸上競技会に単身で参加し、走り幅跳び、円盤投げなどに出場して個人優勝に輝いた。次いで1928年(昭和8年)オランダのアムステルダムで開催されたオリンピックの女子800米競走で銀メダルを獲得し、日本女性初のオリンピックメダリストになった。この時、800米を走り終えた外国の女子選手は全員が仰向けてひっくり返って息を弾ませていたが、彼女のみは胸を抱えてうつ伏せになっているのを見た日本のアナウンサーは「さすがに大和撫子だ」と称賛した。

彼女は、オリンピックの入場式に国名を書いたプラカードが先頭になって入場し、勝利した選手の栄誉を称えて国歌の斉唱と共に国旗が掲揚されるのを見て感動し、帰国してから当時の甲子園での全国中等学校野球大会にもこの方式を採用するように提案して採用され、それ以来、甲子園では校名を記したプラカードを先頭にして選手が入場し、勝利した学校の栄誉を称えて校歌の斉唱と共に

に校旗が掲揚されるようになった。これは現在の全国高等学校野球大会にも引き継がれて今日に至っている。その他、文筆活動を通じて女子スポーツを啓発するため「スパイクの跡」(1929年)、「ゴールに入る」(1931年)などを著した。それから暫くして病死した。23才の若さであった。当時、国民病と云われていた肺結核だった。

正に一瞬の光芒に輝いた短い一生であった。

兵頭(前畑)秀子

和歌山県橋本市生まれ。子供の頃は体が弱かったので母親に水泳を勧められ、紀ノ川で水泳を始めたが、見る見る上達し、女河童と云われるようになった。長じて1932年(昭和7年)ロスアンゼルス五輪200米平泳で銀メダルを獲得し、次いで1936年(昭和11年)のベルリン五輪200米平泳でドイツのゲネンゲル選手とデッドヒートを演じ、0.6秒差で勝利し、金メダルを獲得した。これは日本の女性で初めての五輪金メダルである。

この時、河西アナウンサーはあまりのデッドヒートに興奮して最後の50米の時に競技の放送を忘れ「前畑ガンバレ」を連呼したのは今もって語り種になっている。何でも27回連呼したそうである。

この放送は当時、小学1年生だった私は親父と一緒にラジオにしがみついて聞いていた。当時のラジオは木箱に入った真空管ラジオで、スイッチを入れると大抵はザーンという雑音が鳴り、木箱をポンと叩くと始めてアナウンサーの声が聞こえてくるといった代物であった。放送は時差の関係で深夜になったが河西アナウンサーの「前畑ガンバレ」の連呼を聞いて大いに興奮したのを覚えている。

後年、映画で見た表彰式のシーンで国旗が掲揚される時、ドイツのゲネンゲル選手は、当時のヒットラー張りに右手を高々と上げているのに反し、彼女は花束を胸に抱いて深々と礼をしているのを見て感激を新たにした。



まんが41

側弯

お口にポン太ミン（学31期）



本部だより

会員訃報

次の会員が亡くなられました。
慎んでご冥福をお祈り致します。

事務局編集係

高医20期 永藤芳男先生

平成29年11月18日心不全の為ご逝去(90歳)。
昭和26年卒。
神戸市中央区にて内科・小児科・皮膚科をご
開業になり、地域医療に貢献されました。
ご遺族 妻 良子様

学部2期 大野直樹先生

令和元年9月15日非閉塞性腸管虚血症の為ご逝去
(92歳)。昭和28年卒。
大阪市住吉区にて内科を開業され、地域医療
の為に尽くされました。仁泉会評議員として
会務運営にもご協力いただきました。
ご遺族 長女 丸山圭以子様

学部19期 高木寛敬先生

令和元年9月25日肺がんの為ご逝去(73歳)。
昭和45年卒。
卒業後小児科教室に入局され、昭和48年より
助手をお務めになられました。昭和50年2月から
の枚方市民病院でのご勤務を経て、同10月
に高木小児科病院に勤務されました。昭和54
年高木小児科病院から高木小児科医院に改組
され、昭和58年より同所理事長兼院長をお務
めになられ、地域医療に尽力されておられま
した。
ご遺族 妻 明子様

学部23期 三宅ヨシユキ先生

令和元年6月27日前立腺がんの為ご逝去(78
歳)。昭和49年卒。
昭和55年5月に室戸市吉良川町にて三宅医院
(内科)を開院されました。ご逝去される17日
前まで診療をお受けになり、地域医療に貢献
なさっておられました。
ご遺族 妻 美鈴様



編集後記

新年あけましておめでとうございます。仁泉会会員諸兄姉にはどのような新年をお迎えでしょうか。今回は理事長、学長をはじめ先生方の新年ごあいさつが掲載されています。

かつて正月は普段あまり顔を合わせない家族や親族が集まり、懐かしい話をする機会でもありました。近年はそのような場も少なくなっているのかもしれません、やはり昔のことを思い出したりします。

今号24P和辻先生の記事中、多津屋やミカサのことがでています。ミカサと言えば、「カツ入り(本当はその後に焼きめしがつくのですが、誰も言いませんでした)」か「盛り合わせ(ハ

ンバーグとエビフライ)」が定番でした。マスターはフライパンを振りすぎて前腕の腱を痛め、本学整形外科で手術を受けたと記憶しています。また、多津屋は言わずと知れた「ダブルカレー」です。小筆は3年ほど前、高槻であった研修会の際、久しぶりに食べましたが、その後少々胃がもたれたのは、年のせいでしょうか。教養部近くの、あいあい傘はまだあるのでしょうか。

とりとめのない編集後記になってしまいました。本年も仁泉会ニュースをご愛読くださいますようお願い申し上げます。

(治)

編集部より

会費納入のお願い

年会費
令和2年度 10,000円
令和元年度 10,000円
平成30年度 10,000円
納入のご協力をよろしくお願い致します。

事務局 会計係

原稿募集のお知らせ

仁泉会ニュースの原稿を募集しております。日々の診療で感じられた事、研究報告、趣味のお話やクラス会や支部会のご報告なんでも結構です。

ご投稿お待ちしております。

- 51巻2号(令和2年3月1日発行)
締切 令和2年1月末日
- 51巻3号(令和2年5月1日発行)
締切 令和2年3月末日
- 送付先:仁泉会事務局 〒569-8686 高槻市大学町2-7
E-mail:jimu@jinsenkai.net FAX:072-682-6636

2020年度会員名簿の発刊について

2020年度に会員名簿を作成発刊いたします。

名簿編集にあたり、先生方の個人情報のご確認につきましては、必ず事務局より書面にてお尋ねをさせて頂いております。

お電話でお尋ねすることはございません。また、他社に委託もしておりませんのでご留意いただきますようお願い申し上げます。

本誌に同封の「会員名簿記載事項 訂正届兼掲載事項確認書」をご覧いただき、2016年度版名簿より住所の変更、掲載の有無について変更のあられる先生におかれましてましてはお手数ですが事務局までご返信いただきますようよろしくお願ひ申し上げます。

開業支援ドットコム

開業をお考えの先生方是非ご相談ください！

★ご開業場所の選定・調査 内装・空調等のご相談も承ります。

★ご開業時の税理士等のご紹介(弁護士・社労士・司法書士 etc)

ご開業融資のご相談も承ります。各行政への対応可能な有資格者もご紹介

★ご開業後の経営・運営のご相談

★医療機器・材料等のメーカーとの交渉

医業優先の煩わしい交渉事を一手に引き受けます。

◆ご開業時・ご開業後の様々なご相談事に親切・丁寧にご対応致します。

◆ご開業をお考えなら下記まで一度ご相談下さい。

お問い合わせ先

開業支援ドットコム株式会社 担当:宮崎

090-2705-9997



地元で 50年

薬袋・診察券・カルテなどの
医療印刷

タツミ印刷株式会社

お気軽にご相談下さい。

池田・高槻
tel: 072-761-8434

ハードルをジャンプ!!